



## 挨拶

会 長 石 原 啓 資



会員の皆様には大変ご無沙汰致しておりますが、お変わりございませんか？

新型コロナウイルスの猛威が下火になり全国的に新規感染者数も減少傾向となりコロナとの共存を目指す経済活動が容認されたような雰囲気は漂っていますが、大勢の人が一堂に集まり飲食を共にして会話が許される状況まで至っていないとの政府方針が維持されており、会員の皆様のご健康を考慮すれば、会員の皆様が100名以上参加される社友会総会及び懇親会を開催することはやはり無理との世話人全員一致の判断に至り、五回連続会員の皆様と親睦を深める会合の中止となりました。誠に申し訳なく思うとともに、世話人会の決定にご理解を切にお願いいたします。

四回目のワクチン接種が始まりました。予防には是非前向きに取り組んでいただき、行動規制も可成り緩和され、県民割も全国展開が検討され7月中旬には実行される見込みと思われ、屋外にて健全な日々を取り戻していただきストレス解消をしていただければと思います。今回のコロナ禍で、身体を動かさず筋力の衰えが生じ、車いす生活を余儀なくされたり、寝たっきりになったご高齢の方が多くいらっしゃるとお聞きしています。体を動かしご健康な日々をお過ごし下さい。

2022年2月24日、ロシアは陸海空からのウクライナへの侵攻を一斉に開始しました。西側の国々ではこのロシアの突然のウクライナ侵攻に驚きこの暴挙を非難しています。毎日映像で幼い子供たちの恐怖に満ちた不安っぱいの顔、泣き叫ぶお年寄りの方々を目にするとこの光景はこの世の中の出来事かと疑いたくなるばかりです。戦争の悲惨さを痛感しています。「我々は何、悪いことをした？」と叫んでいたご高齢の女性の言葉が頭に焼き付いています。一日でも早くロシアの侵攻が収まりウクライナに平和な日が訪れることを祈るばかりです。

今回のロシアの暴挙がきっかけに、台湾海峡の安全が危惧されています。台湾有事は日本の有事と、高々に語られた勇ましい元首相がおられますが、煽ることは如何かと思ひ危機が現実にならぬよう高度な外交をすすめられること切望いたします。ドイツの前首相メルケルさんがプーチン大統領を説得し暴挙を抑えていたと知り、日本にも斯様な立派な政治家が出現すればいいのだが……？と思う次第です。

6月22日に公示され7月10日投開票される参議院選挙が行われます。この第32号会報が会員の皆様のお手元に届く頃には選挙結果も示されておりますが、各政党の選挙公約を見ても手法は違えども物価高騰対策をこぞって一面に出しています。野党に頑張っただき自民党を刺激して緊張感を与えていただきたいが、野党はバラバラで殆ど纏まりがなく与党の圧倒的勝利になるのではと推測します。今回の円安・ドル高局面で提供された情報の中に、過去30年間

平均給与が横ばいであることを知り、この期間国の成長がなかったこと理解できましたが、少子化が急激に進み人口減少しても国のGDPが増えて行く社会を構築する仕組み作りが不可欠です。生産効率向上が唯一の策と考えます。効率を最優先する社会作りにはIT技術を有効利用すべきです。少人数で効率的に運営できる社会構造に変化させ一人当たりのGDPを大幅に向上させれば質の良い日本が生まれるのではと信じています。その為には、教育が非常に重要になってきます。子供を産み育てやすい環境を作ると共に、世界で戦える人材を一人でも多く育成する教育に国家予算を重点配分すべきです。「人は財産」今後とも通用する言葉と信じています。現役を引退し晴耕雨読の日々を過ごしていると、真っ白な気持ちで接することができ不思議と理不尽なことが理解でき「何故、出来ないのだろ・・・？」と自然と感じます。現役時代は自分の正しいと思うことを迷いなく強引に進めていました。数多くの方々にご無礼もあったと思いますが、間違ったことをした覚えはありません。然し今になれば少し反省しています。

日経新聞によると、5月2日発表の双日株式会社2022年3月期連結決算純利益は前期比3倍の過去最高額823億円とのこと。資源高騰の影響はあると言えども過去最高純利益を計上できたことは、先輩の一員として喜ばしい出来事と嬉しく思っています。役職員全員がコロナ禍で大変なご苦勞をされての結果と受け止めています。合併前後に役員として従事した私として当時のことを思い出せば立派な会社になったとの喜びが募っています。更なる飛躍を祈念しています。

コロナ禍と言えども五回連続で社友会の重要会合を中止し会員の皆様に寂しい思いをさせている現状、会の運営が年二回の会報発行とHPの定期的更新にて会員の皆様との接点を維持していますが、社友会役員として本意ではありません。会員の皆様と一堂に会し楽しく飲食を共にし、過去・今・将来を語り合える場を再現することを切に願っています。コロナ患者がゼロになることは難しいと思いますが、インフルエンザ並みの対応に政府が方針を変更されることを期待しています。

私事ながら5月下旬、牛ではなく女房に曳かれて善光寺詣でをいたしました。7年に一度の御開帳が昨年コロナ禍で中止になり本年感染予防を徹底し御開帳が実行されました。次回7年後は生存しているか若干疑問を感じたので本年決断した次第です。善光寺は無宗派の寺院であり、世界の平和・双日の更なる発展・社友会会員の皆様のご健康と我孫の健やかな成長を祈念してきました。久方ぶりの遠出で道中心配でしたが、コロナに感染せず無事帰りました。少しは気分転換になりました。

毎日、新規感染者が全国で一万人を超えています。ウクライナ問題が優先された報道が多くなりコロナ問題の影が若干薄くなりつつあります。然し、ウイルスは存在しています。感染予防には引き続き充分配慮され感染せぬよう日々ご健康でお過ごしください。沖縄地区の梅雨明けが報道され、真夏日が顔を出し始めました。熱中症にもご留意いただきお元気でお過ごしください。2023年新年会が開催できることを切に願い筆をおきます。

以 上

## 2021年度事業報告 及び 収支報告(案)

(期間：2021年7月1日～2022年6月30日)

### ニチメン東京社友会

#### I. 事業報告

	実績	千円 予算
第16回 総会・懇親会開催 (中止)	0	0
会報の発行	638	800
会報30号 2021年8月7日発行		
会報31号 2021年12月8日発行		
ホームページの運用	179	200
第15回 新年会開催 (中止)	105	700
慶弔行事	987	900

#### II. 収支報告

##### A) 収入の部

1. 会費	1,045	1,200
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄付	122	0
4. その他	17	0
合 計	3,684	3,700

##### B) 支出の部

1. 総会開催	0	0
2. 新年会開催	105	700
3. 会報・会員名簿の作成	638	800
4. ホームページの運用	179	200
5. 会員慶弔	987	1,000
6. 世話人会の運営経費	12	300
7. 事務所運営経費	751	850
8. 予備費+雑費	0	50
合 計	2,672	3,900

##### C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	1,012	- 200
前期繰越金	2,836	2,836
当期末繰越金残高	3,848	2,636

##### (預り金)

次年度以降年会費等	297	
双日次年度助成金	625	
預り金残高	922	
合 計	4,770	

## 2022年度事業計画 及び 収支予算(案)

(期間：2022年7月1日～2023年6月30日)

### ニチメン東京社友会

#### I. 事業計画

	千円	
	予算	前期実績
第17回 総会・懇親会開催 (中止)	0	0
会報の発行 (年二回 会報を作成し送付いたします。)	800	638
ホームページの運用	200	179
第15回 新年会開催 (2023年1月 予定)	700	105
慶弔行事 (長寿対象者 23名)	1,000	987

#### II. 収支予算

##### A) 収入の部

1. 会費	1,000	1,045
2. 双日助成金	2,500	2,500
3. 寄付	0	122
4. その他	0	17
合 計	3,500	3,684

##### B) 支出の部

1. 総会開催	0	0
2. 新年会開催	700	105
3. 会報の作成	800	638
4. ホームページの運用	200	179
5. 会員慶弔	1,000	987
6. 世話人会の運営経費	300	12
7. 事務所運営経費	850	751
8. 予備費+雑費	50	0
合 計	3,900	2,672

##### C) 繰越金及び預り金の部

当期収支残高	-400	1,012
前期繰越金	3,848	2,836
当期末繰越金残高	3,448	3,848
次年度以降年会費等	0	297
双日次年度助成金	0	625
預り金残高	0	922
合 計	3,448	4,770





## 会員寄稿文

## 高尾山 テクテク歩き

大 平 栗 雄

3月で79歳になる私の今年の高尾山初登りは1月14日だった。高尾山薬王院に昨年のお札を納め、新たに今年のお札を買った。

さて、来年80歳の年にこれを納めに来れるだろうかと思いつつ――

当日は、北陸、東北地方は大雪とかでそれなりの防寒対策はして行ったが、快晴無風のベストコンディションで頂上にも山道にも雪の欠片もなかった。

富士山もくっきりと見えた。シーズンには芋の子を洗うような混雑の頂上広場も、さすがに閑散としておりベンチに腰掛けコンビニで買った130円のおにぎりとお菓子パンを食べ、持参したポットのコーヒーを飲む。のんびりと正面の富士山を眺めていると「ああ今年も始まったなあ。又、この一年頑張ろう」という気になってくる。昨年は15回登っているが、年々、脚力と体力と気力の衰えは著しく登山回数は激減している。それでも何とか高尾山ぐらいはがんばろうと思っているが、近年は気力にさえ衰えを感じるのはいながら情けない。別に山登りが得意とか趣味とかいうのでもなく、ただ、まったく何の趣味も持たない私が会社を完全退職後、どのような年金生活を過ごすのかと我ながら心配していたところ、幸いなことに、退職後しばらくして高校時代の山好きな仲間と出会い、結構アチコチの山に連れて行ってもらった。高校時代から一度は行きたいと思っていた上高地、河童橋を64歳の夏、奥穂高登頂後に訪問できたのは本当にうれしかった。

又、現役時代、新幹線から何度も眺め、いつかは登ってみたいと夢のように思っていた富士山登頂も68歳の時に実現。この時

は一合目からテクテク一人で登った。富士山の初登頂が私の3000M級の最後。2000M級は69歳の時の友と登った山形県の鳥海山が最後。1000M級は77歳の時の丹沢・大山が最後。その連中との山歩きも近年は月一回の低山歩きと里歩きに変わってきた。個人的には私も、最近では高尾山(599M)とその奥の小仏城山(670M)さらにその奥の景信山(727M)が精一杯。さらに奥にある陣馬山(857M)にはもう足が伸びない。他に趣味がないから山歩きぐらいはと思っているが、山歩きの良いのは、とにかく、どんなにしんどくても一歩でも半歩でも前に出ていると、いつかは頂上に到達するという。その時の達成感というか爽快感は3000Mも500Mも変わらない。なんとも言えない。それがあから又、懲りずに登ることということかも知れない。

1月14日は頂上での昼食の後は直ちに下山。昔は山道を転げるように下りていたが今は広いアスファルト道路の一号路をチンタラチンタラ下りる。

下りきった先は京王線高尾山口駅で隣接の温泉に入る。5、6年前に新設されたこの温泉が歳取ってからの高尾詣での大きなモチベーションになったのは間違いなし。中央線に乗り換えて帰路につく。家から高尾山口駅まで一時間弱というのも高尾山歩きが長続きしている大きな理由の一つだろう。

最寄り駅前のスーパーで今日は、今年のお初登りだから少し高価な刺身を買って家でビールとウイスキーを軽く飲む。なんとも言えない充足感と幸福感を味わう。なんとか今年一年も高尾山 テクテク歩きは続けたいものだ。

(完)

## 会員寄稿文

## マンドリンとNMC他との出会いについて

入 江 隆 史

NMC（ニチメン・マンドリンクラブ）についての投稿は、この会報のNo. 29号に既に掲載させて頂きましたが、このクラブに入るきっかけとなった、私の楽器との出会いの経緯を読んで頂こうと思い、今回、投稿させて頂きました。

私が初めてマンドリンと出会ったのは、大学入学時に学校のキャンパスで行われていた部員募集の場所でした。10歳まで住んでいた故郷の富山で、いつもお昼のラジオで聞いていた「歌の無い歌謡曲？」とかいう番組で、その大学の倶楽部の演奏する「丘を越えて」の曲が番組の終わりに、必ず流れていて、マンドリンの演奏音だけは良く聞いていました。

大学での色々な入部する先を検討しました結果、そのマンドリン倶楽部に入ろうと思ったのが、この楽器との初めての出会いです。最初は初心者用の、安い楽器を買って教則本を見ながら練習していました。この倶楽部は学生ながら、演奏会は有料で演奏し、夏は北海道からスタートして東日本を約40日間、春は西日本を同様に約40日間演奏して廻る為に、1年間、この倶楽部に在籍するだけで日本を一周する事が出来ました。しかも旅行中の費用は全て無料でした。

最初は、練習生という事でひたすら「オディル・マンドリン教則本」を見て練習をし、上級生の許しが出たら初めて正部員になる為の演奏テストを受けます。そしてこのテストに合格して、正式な部員となって初めてステージへの参加が可能となります。私が1年生の時は、同期の殆どが付属高校でマンドリンクラブに在籍していた人達で、従って入部テストも、全員一発合格でした。

一方、私は7月初めの夏の合宿まで、全くテストを受ける許しももらえず、20数名もいた1年生の中で、私一人だけが夏の合宿に練習生として参加する事になりました。

1週間、夏の白樺湖での合宿が続けられますが、4日目に部長から「お前の入部テストは、おやじが直接見るからな！」と言われました。

私は、このおやじとは誰の事か全く分からず、はい！とだけ答えましたが、後で、明日、この合宿所に来るのは古賀政男先生だと聞き、大変驚きました。

合宿5日目に予定通り古賀先生が、来られ指揮者の所にテスト者用の譜面台と椅子が並べられて、テストが始まりました。指揮者から教則本の練習曲の何番を！と指示されると、それに従って私一人が、正部員を背にその指示された練習曲を演奏して3曲程演奏をし終わると、いきなり、私の肩に古賀政男先生が手を掛けて、「皆さん！入江君が、この程度も弾ければ、部に入れてあげたら如何ですか？」と言ってくれました。そうすると、部の皆が手を叩き、目出度く正部員として認められ、演奏体系の2ndマンドリンの一番後ろに座っての練習を開始しました。演奏途中に楽譜のどこを弾いているのか、何度か分からなくなりましたが、すると肩越しに古賀先生が、楽譜に指を置いて場所を教えてくれました。

帰京後、5日後に羽田からの飛行機で札幌へ飛び、演奏旅行が開始しました。

地方の演奏での何ヶ所かでは、プロの歌手がゲストと一緒に参加して、緊張感を持って、しかし楽しく演奏旅行をする事が出来ました。





第83回 定期演奏会

ニチメンに入っても、お蔭さまで、NM Cがあり先輩諸氏の皆さんと部を超えてお付き合いをさせて頂き、ここ数年前まで、外部での公演をやったりしていました。(公演の詳細は、会報No. 29に記載しています。)

「音楽は和なり」の古賀政男先生の色紙



今、考えて見ますと、大学での倶楽部の入部に際して、却って初心者だったのが幸いして、古賀先生の直々の入部テストを体験出来た事が、とても良かった！！と感謝しています。

この楽器との出会いがあったお蔭で、今も沢山の友人達と一緒に合奏を楽しみ、また多くの方に演奏を聴いて頂く事が出来ています。





**岩田マンドリーノ・シンフォニカ 第59回演奏会 2019.7.14 町田市民ホールにて**

また住まいの地元のクラブでの公演を楽しんでいます。今年も1月9日(日)に地元のポプリホールで新春の演奏会を開催し、13曲演奏をしました。

添付しました写真は、50年以上も前のものもあり、見づらいものも多いですが、様子を少しでも、ご理解頂く為に、添付させて頂きました。



楽器演奏にご興味がある方は、是非、NM Cへの参加もご検討下さい！！



## 会員寄稿文

## 中国西域、西夏王国について

中 田 龍 彦

## 映画「敦煌」

1988年の日本・中国合作映画『敦煌』(とんこう、中: Dun-Huang; 英: The Silk Road) をご覧になった方は多いと思う。原作は井上靖の小説「敦煌」。この映画は1989年の第12回日本アカデミー賞で複数受賞をした。

映画「敦煌」に登場するのが11～12世紀に中国西域に存在した“西夏”(せいかに)という王国である。

## 映画「敦煌」のあらすじ

北宋のころ、主人公・趙行徳は科挙の最終試験殿試を受けるため宋の首都開封府にやってきた。行徳に出された問題は「西夏対策を述べよ」であったが、西夏が単なる辺境だと思っていた行徳はまともに答えることが出来ず、受験に失敗する。次回の科

挙は3年後……。失望感のあまり自暴自棄になっていた行徳は、街で西夏の女を助けた礼として、西夏への通行証をもらった。西夏の文字に興味をもった趙は西域へと旅立つ。灼熱の砂漠を尉遲光の隊商と共に歩いていたが、途中で西夏軍漢人部隊の兵士狩りに会い、無理矢理入れられてしまう。

隊長の朱王礼は文字の読める趙を重用した。辺境だとばかり思っていた西夏は、シルクロードの拠点として仏文化の華開く砂漠のオアシスだった。漢人部隊がウイグルを攻略した際、趙は美しい王女ツルピアと知り合い恋におちた。二人は脱走を試みるが失敗、趙は西夏王・李元昊(りげんこう)の命令で西夏の都の興慶府へ文字の研究に行くことになった。二年後、趙が戻ると、李はツルピアと政略結婚しようとしていた。趙も朱にもどうすることもできなかったが、婚礼の当日ツルピアは城壁から身投げして自殺してしまう。ツルピアに思いを寄せていた朱の怒りは爆発し、敦煌府太守・曹を味方につけて李に謀反を起こした。敦煌城内で死闘を繰りひろげる漢人部隊と西夏軍本部隊。初めは漢人部隊が優勢だったが敦煌城に火矢が放たれ、朱側は火に包まれた。戦うことより文化遺産を戦火から守ることに使命を見出していた趙は、教典や書物、美術品などを城内から莫高窟へ運び込んだ。それから900年が経ち、莫高窟からこれら文化遺産が発掘され、敦煌は再び世界の注目を集めたのだった。

映画では主演の趙行徳を佐藤浩市、李元昊を渡瀬恒彦、ツルピアを中川安奈、朱王礼を西田敏行が演じた。

【キネマ旬報データベース/ウィキペディアより】



6月25日土曜 全国東宝系公開 '88年夏全世界公開



## 西夏の歴史

映画「敦煌」の舞台となったのが西夏である。西夏のあった場所は現在の中国のほぼ中央にある寧夏回族自治区の省都である銀川（ぎんせん）。以下、西夏歴史探訪をしてみたいと思う。

西夏（1038年～1227年）は、タンゲートの首長李元昊が現在の中国西北部（甘粛省・寧夏回族自治区）に建国した王朝。国号は大夏（たいか）であったが宋は西夏と呼んだ。首都は興慶府（現銀川）。モンゴル帝国のチンギス＝ハンによって滅ぼされた。

## 西夏の成立

中国の寧夏回族自治区を中心に古く繁栄した王国。中心民族はタンゲート（党項）族で、チベット語と同系の言語を話す遊牧民族であった。初めは四川省西部に住んだが、チベットの吐蕃（とばん）がこの地方を支配すると、青海から移動して寧夏、甘粛に移った。その首領拓跋思恭（たくばつしきょう）は881年唐から夏州定難軍節度使を授けられ、883年黄巢の反徒から長安を奪還した功によって唐朝の姓である李姓を

賜わった。唐末、黄河が屈曲するオルドスにおこったチベット系のタンゲート族（党項：とうこう）は、吐蕃・ウイグルの衰退に乗じて東西交通の要衝河西地方（その中心が敦煌）に進出し、東西貿易路から得られる利益を基礎に強大化した。

## 李元昊（景帝）

983年李繼遷は宋から独立。1028年李元昊が甘粛を平定、1038年族長の李元昊（景帝）は西夏（1038年～1227年）を建国し大夏皇帝の位につき、都をオルドスと河西の境界にあたる興慶府（こうけいふ、現在の“寧夏回族自治区銀川”）においた。国号は大夏であったが、宋では西夏と呼んだ。興慶府の近くには南北200キロにわたり賀蘭山が連なる。李元昊の性格は勇敢剛毅、計略、智謀、軍事にすぐれた英傑で、しかも芸術的才能もあり絵を描くこともうまく、仏教、漢文にも通じていたと伝えられている。

宋は始め西夏の建国を認めず、宋・西夏間の戦争が勃発したが、苦戦に陥った宋は1044年、西夏と和約し（慶暦の和約）、西



出所：世界の歴史まっぴ



李元昊の彫像 出所；搜狗

夏は宋に臣下の礼をとるかわりに、宋は西夏に毎年多額の歳賜（さいし：毎年銀5万両・絹13万匹など）を贈る約束をした。また、宋との間には2ヶ所の榷場（かくじょう、官営交易場）が設置され、国境貿易が行われた。

西夏は中国式の文武の官制や儀礼などを採用し、州・都を設けて中央集権体制をとった。その支配下には漢人や吐蕃族・ウイグル族を含み、一種の複合国家でもあった。

その反面、タンゲート族独自の伝統的な風俗を保存するため、1033年李元昊は西夏独自の髪型を徹底的に普及させるため秃髮令（とくはつれい）を發布した。

西夏文字

1908年 ロシアの探検隊がカラホト遺跡（別名：黒水城、中国内モンゴル自治区エチナ旗）から大量の西夏文字資料を発見し、西夏文字の研究が徐々に進んだ。カラホト遺跡からは、西夏語と漢語対訳の単語帳が発見され、主要な文字の意味や発音が明らかになった。このほかにも、発音別に配列された西夏文字の字書が発見されたことにより、西夏語の音韻体系が解明された。20世紀後半には、日本の西田龍雄・京都大学名誉教授らによって西夏文字の意味や発音などが体系的に解明され、現在、約8割の文字の意味が明らかになった。西夏では中国（当時は宋）やチベットの文化を排除す



西夏文字 テキスト『大千国守護吉祥頌』は、チベット語仏典から翻訳された西夏語仏典。ロシア科学アカデミー東方学研究所サンクトペテルブルグ支所所蔵。出所：日本の歴史と日本人のルーツ 山本 和幸

ることなく貪欲に吸収し、それらを西夏語に翻訳出版していた。特に『孫子』『孝経』など中国の著名な古典や、漢語・チベット語の仏典が西夏語に翻訳されていたため、そうした訳本の存在も解読の大きな助けとなった。

西夏の滅亡

第5代皇帝の李仁孝の死後は息子の李純佑が第6代皇帝に即位したが、この時期になると政治腐敗が進み、国勢は凋落の一途を辿っていた。その状況下の1206年、親族の李安全が帝位を篡奪（注1）し李純佑を殺害、それまで金に依存した外交政策を見直し、当時強大な勢力を誇ったモンゴル族に依存する政策を採用した。

第7代皇帝の李安全は金に対し十余年に及ぶ軍事行動を発動した。この軍事行動は金のみならず西夏の国力を疲弊させるものであり、飢饉などで貧困が続いていた民衆の離反を招き、更に政治腐敗のみならず、皇帝自らが酒色に溺れ朝政を省みない状況で、国内は一層不安定なものとなっていた。またモンゴルに依拠した外交政策も、西夏の安全を保障するものでなく、1205年にはモンゴルは西夏侵攻を開始、1209年までに

1-1	𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟	2lenq 1tuq 2lhe? 1cyuq 2'wyeq2 2gu:' 1ryur 1la:'	大 千 国 守 護 吉 祥 頌
1-2	𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟	2thl: 1ryur 2kyeq 1ldiq' 1te: 1no" 2deze: 1ryur 2kyeq	この 世界 及び もし また 他の 世界 この世界、及びもしまた他の世界、
1-3	𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟	2phyu 1'i: 2'u 1dyu 2bu' lge: 1ziq' ?ni? 1ta:	上 舎 の 中 に ある 特殊な 宝 珠 とは 上舎の中にある、特殊な宝珠とは、
2-1	𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟	2thl: 2syu 2dzwo: 1kha 2phyu 2tseu 1ngl 1kha 1ngl	この ような 人間 上・第 天 間 天 このような人間の第一（の者）、天中天、
2-2	𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟 𐞗𐞟	1myor 1lenq 1pyuq 1ta: 1ngir 1ta: 1zylr 1mi: 1dyu	如 來 尊 とは 等しい とは 微小 否定 辞 有る 如来尊とは、等しい（もの）は全くない、

『大千国守護吉祥頌』の和対訳 出所：日本の歴史と日本人のルーツ 山本 和幸



3次に亘る西夏出兵ですでに国力は限界に達した。

1211年、西夏で宮廷クーデターが発生、李遵頊が帝位を篡奪し第8代皇帝となった。しかし中興に影響を与えるものでなく、西夏の国力は下降線の一途を辿った。1216年、西夏はチンギス・カンの出兵要請を拒否する。その行為はモンゴル側の怒りを招き、1217年に第4次西夏遠征が行われるに至った。1223年、李遵頊は自らが亡国の君主になることを避けるため、太子（注2）の李徳旺に譲位、李徳旺が第9代皇帝となった。

西夏は李安全と李遵頊の治世下で滅亡寸前の国力となっており、李徳旺の登場で復興できる状態ではなかった。李徳旺はモンゴルに対抗するため、チンギス・カンが西征した機会を狙ってモンゴルを攻撃しようとしたが、事前に情報がモンゴル側に漏れ、1224年にモンゴル軍により都の興慶府が包囲されるとモンゴル軍に投降、人質を送る

ことで滅亡することはわずかに免れることができた。1226年、李徳旺が病死し、甥の李睨が皇帝に推挙されたが、翌年に李睨はモンゴルに投降し、まもなく、李睨は西夏の君民とともにモンゴルの太子オゴデイ（太宗）によって殺害され、ついに西夏は滅亡した。

### 東方のピラミッド 西夏王陵

最後に西夏王陵についてご紹介したい。筆者は2002年10月に日本国際貿易促進協会訪中団のメンバーとして、寧夏回族自治区銀川を訪問、寧夏回族自治区政府と経済交流を行った。その際に銀川にある西夏王陵を見学する機会があった。西夏王陵とは、西夏の都だった興慶府（現在の銀川）の郊外の賀蘭山麓の平原に広がる陵墓群で、東方のピラミッドと呼ばれている。歴代皇帝の陵と言われる9基の大型墓と、大小様々な大きさ、形がある200基あまりの陪葬墓が



西夏の初代皇帝である李元昊（景宗）の墓陵と言われている第3号陵（筆者撮影）  
右下の写真の王陵とそこに立っている人のサイズから王陵の大きさが分かる。



西夏博物館に陳列されている西夏王陵の復元模型  
出所：西夏史への招待 武藤白

ある。前掲写真が西夏の初代皇帝である李元昊（景宗）の第3号陵と伝えられている。西夏の前進の夏国公の初代皇帝である李繼遷（太祖）の王陵が1号陵。李繼遷（太祖）は西夏の初代皇帝の李元昊（景宗）の祖父にあたり、2号陵の李徳明（太宗）は西夏の初代皇帝の李元昊（景宗）の父であり、夏国公の2代皇帝。初代皇帝の李元昊（景宗）は夏国公の3代皇帝でもあった。

3号陵は、西夏王陵全体のほぼ真中にあり、規模の大きさや位置関係などから李元昊の陵墓ではないかと推定されているが、李元昊の墓であることを確定する物証はまだ見つかっていない。西夏王陵の形は円錐

のようにも見えるが、八角錐で上下に複数の段が付いた形をしている。近くで見ると土を突き固めた、版築状の層の積み重なっているのが見える。西夏博物館に展示されている復元模型（下記右側の模型）では、陵台は7層の瑠璃色の屋根を載せた建物だったと推定されている。陵台も含めた西夏王陵は、モンゴルに征服された際に徹底的な破壊を受け、更に千年もの時間の経過によって、今はその基礎となった突き固め

陵号	廟号	皇帝名と陵名	皇帝代
1号陵	太祖	李繼遷の裕陵	李元昊の祖父
2号陵	太宗	李徳明の嘉陵	李元昊の父
3号陵	景宗	李元昊の泰陵	初代皇帝
4号陵	毅宗	李諒祚の安陵	2代皇帝
5号陵	恵宗	李秉常の献陵	3代皇帝
6号陵	崇宗	李乾順の顕陵	4代皇帝
7号陵	仁宗	李仁孝の寿陵	5代皇帝
8号陵	桓宗	李純祐の庄陵	6代皇帝
9号陵	襄宗	李安全の康陵	7代皇帝
	神宗	李遵頊	8代皇帝
	献宗	李徳旺	9代皇帝
	末主	李睨	10代皇帝



西夏陵詳細地図 出所：西夏史への招待 武藤白

られた土の山だけが残っている。西夏王陵からは、綺麗な緑色を残す瑠璃瓦の他にも焼けた木片も発見されている。

西銀川は砂漠地帯で荒涼とした場所ではあるが、西夏王陵以外にも銀川南関清真大寺（注3）、賀蘭山岩画（注4）、鎮北堡西部影城（注5）等があり、魅力的な観光スポットが多数存在する。

北京から銀川の距離は1,107kmで飛行機で約2時15分のフライト、上海から銀川の距離は1,610kmで飛行機で3時間20分のフライトである。コロナ禍でもあり、海外旅行は中々出掛けられないが、コロナが収束した際の新たな旅先の候補の一つとして寧夏回族自治区銀川を観光されては如何だろうか？

おわり

＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝＝

注1 篡奪（さんだつ）：本来君主の地位の継承資格が無い者が、君主の地位を奪取すること。あるいは継承資格の優先順位の低い者が、より高い者から君主の地位を奪取する事。ないしそれを批判的に表現した語。本来その地位につくべきでない人物が武力や政治的圧力で君主の地位を譲ることを強要するという意味合いが含まれる。

注2 太子（たいし）：古代中国の、天子や諸侯の世継ぎ。

注3 銀川南関清真大寺（ぎんせんなんせきせいしんたいじ）：清真とはイスラム教を表す中国語。寧夏回族自治区で最大級のモスクで、同エリアのイスラム教徒達の活動拠点になっている所。白い壁に緑色のドーム型の屋根が映えてとても美しく、遠くからでも目につく。創建は明代、文化大革命で一度破壊されたが、1981年に再建された。

注4 賀蘭山岩画（がらんざんいわえ）：西夏王陵と並ぶメジャーな観光スポット。銀川から46km北西、賀蘭山山口で発見された約1万年前の壁画。古代中国の遊牧民族が600mにも渡って岩壁に残したものと言われている。人物像、狩猟、放牧、戦争、舞踏の風景の他、トーテムと生殖崇拜などの精神的内容の壁画も発見されている。素朴な作風ながらも古代の遊牧民族の自然崇拜、祖先崇拜などさまざまな文化を見て取ることができる。

注5 鎮北堡西部影城（ちんほくほうせいぶえいじょう）：元々は明代長城の要塞跡で、現在は城壁の内部に昔の街並みが再現され映画のセット（ロケ地）として使用されている。いわゆる映画村で、一般向けにも公開。銀川市街中心部から北西へ約20km。



## 会員寄稿文

# 「商社マンの華麗なる転身」

矢 嶋 正 孝

藤田康弘さん（昭和39年入社、機械）は、昨年7月、新装「京都市京セラ美術館」にて開催された「三軌会関西展」特別コーナーに8作品を展示、更に、10月～12月には筆者（矢嶋正孝、昭和50年入社、機械）の住居近くの大阪・千里の商業ビルにて大型400号の新作を展示されました。ニチメンOB・OGの皆さんはよくご存知の通り、ニチメン時代の藤田さんは、パリ（繊維機械）とジャカルタ（自動車）に駐在された仕事一筋の商社マンであり、理系の大学時代もバスケットボール部所属のスポーツマンで絵画の趣味は無かったとの事ですが、それが一転、サラリーマン卒業後第二の人生としての「画家への道のり」を以下ご紹介します。

- \* 2001年サラリーマン時代の無趣味を反省、デッサンや水彩画の勉強を開始（60歳）。
- \* 2003年頃より、海外の風景写生のため、欧州、アジア、中東、米国などを訪問（62

歳～）。

- \* 2006年頃より、ろうけつ染めをヒントに水彩画の新技法開発、後に『ラヴァージュ画』と命名。
- \* 2007年エジンバラ芸術大学特別研修生の選考試験合格、水彩画・人物画の夏期講座終了（66歳）。
- \* 2014年プロも出品される高いレベルの三軌展に初入選、京都市立美術館に入選作を展示（73歳）。その年、京都・寺町三条の画廊にて、これまで描かれた大小多くの作品を展示した個展を開催。
- \* 2015年三軌展に連続入選、そして新技法『ラヴァージュ画』が特許庁に商標登録される（74歳）。また、京都・烏丸御池のギャラリーにて、絵画・生け花・津軽三味線のユニークな四次元イベント開催。
- \* 2016年三軌展に3年連続入選、その実力を評価され、高齢ながら三軌会の正会員に（75歳）。



藤田康弘氏作品 『回廊からのシエナ』 400号 ラヴァージュ画

2021年10月1日～12月27日

千里朝日阪急ビル

- \* 2018年「薨の波Ⅲ・サン・ジミニアーノ」で三軌展に5年連続入選、更に会員では最高の栄誉「会員優賞」を受賞、また、この作品が美術の月刊誌「美術の窓」7月号に紹介される（77歳）。
- \* 2019年三軌展出品作「カテドラーレ・シエナ」が前年に続き「美術の窓」7月号に紹介される。
- \* 2020年関西テレビ連続ドラマ『銀座黒猫物語』に藤田さんの絵画が採用され、TVに小道具として登場。
- \* 2021年新装された京都市京セラ美術館の三軌展の特別コーナーで8作品を展示。更に、400号の新作「回廊からのシエナ」が千里朝日阪急ビルに展示される（80歳）。

上記の通り、この様な上級レベルの著名な画家と比較した場合、藤田さんは絵描きのスタートが40年以上も遅れています。しかし、60歳を過ぎてからであっても、技術習得開始、新技法開発、大型作品の制作等々若者に決して負けない驚異的なエネルギー（情熱・体力・集中力）は『日本の高齢化対策としてのお手本』と評価されても決して大袈裟ではありません。また、自己の水彩画を描く一方で、色鉛筆画教室の講師もさ

れています。藤田さんがこれまで描かれた絵画は風景画、建物、静物、人物、模写等々「何でもあり」色使いもバライティに溢れ、ヨーロッパ風だけでなく日本風の作品も、これぞ『美術家の総合商社』です。

さて、千里中央に於ける展示会の状況と筆者の感想を下記します（絵画は全くの素人ですが・・・）。

- A. 展示場所は、千里中央の高層22階建て商業ビル「千里中央朝日阪急ビル」1階の玄関ホールに設置された「アートプロムナード」で、ここに400号（460x172cm）の大型作品の展示は、そう多くはないと思われます。
- B. 藤田さんは、シエナの薨の波（屋根瓦）を描かれた作品を多く発表されていますが、それを今回の作品は「世界遺産の大聖堂の回廊（立入禁止）から観たシエナの景色を想像して描いた」という大変面白い発想です。
- C. 回廊の4本の柱の間からの景色が描写されていますが、右から2コマ目に描かれている塔がキラリと光り、ここには金粉入りの様な絵の具が使用されています。
- D. 右端の窓には黒猫の後ろ姿が描写され

### 藤田康弘氏 作品『三軌会関西展』 2021年7月 @ 京都市京セラ美術館





ており、これは前述の関西テレビ連続ドラマ『銀座黒猫物語』に採用された黒猫ちゃんによく似ており、また、多くの小さな窓には人影も描かれ、大変"味"のある作品です。

筆者は、毎朝6時過ぎ近所の千里中央公園で愛犬と散歩していますが、そのワンちゃん仲間やラジオ体操・太極拳各グループの皆さんに、携帯に入れている『回廊からのシエナ』や『薨の波』等々の写真を見て貰い藤田さんの経歴を紹介したところ、大勢の方々が友人や家族を誘って展示作品を鑑賞されました。皆さんの感想は「6歳を過ぎて絵を始めた人がこれ程の作品を描かれるとは！」「ろうけつ染めを絵画に採用されるとは、京都人の素晴らしい発想ですね」「この大きいサイズの絵を80歳の方が・・・」等々絶賛されており、傘寿を迎えられてもダンディな「ムッシュ・フジタ」さんのご活躍は、我々としても大変嬉しい限りです。

【追伸】

上記の寄稿文は2022年2月に執筆したも

のですが、その3ヶ月後に、この大型作品「回廊からのシエナ」が栄誉ある「文部科学大臣賞」に輝き、本年5月に東京国立新美術館（六本木）にて授賞式が行われました。

この作品が、芸術分野で最高レベルの委員に選考され、数多い作品の中から「文部科学大臣賞」に相応しいとして評価されたのは素晴らしい。また、委員の皆さんは藤田さんの絵画の経歴（商社マンが定年後の60歳から絵画を始め、ラヴァージュ画と云う新技法を開発し特許庁に商標登録され、73歳頃から各種の賞を受賞、80歳で400号もの超大型作品を制作等々）は全くご存知ありませんので、これらの情報を提供し、芸術家に贈られる紫綬褒章の派生として「高齢化社会へのお手本となるシニア芸術賞」など、特別賞を新設されては・・・と推奨したいぐらいです（ちょっと、オーバーな表現かもしれませんが）。なお、この寄稿文に「絵画は全くの素人ですが・・・」と控えめに個人的な感想を記載しましたが、それが3ヶ月後にプロにも高く評価され、非常にタイミングよくワンちゃん仲間やニチメン社友会の会報にムッシュ・フジタ画伯を紹介できました。 おわり

<p>藤田さん作品集： 欧州編 ① </p>  <p>欧州の建物や市街を ⇒ 茶系 だけでなくカラフルな色使い (人物や緑樹も描写)</p>	<p>藤田さん作品集： 静物編も素晴らしい </p>  
<p>藤田さん作品集： 模写編 ① </p>   <p>藤田画会主催 2022年7月 2日 午後3時 2022年8月 本報は東京国立新美術館にて...</p>	<p>藤田さん作品集： 色鉛筆の作品も </p>   <p>絵画教室の 講師として 生徒を 教えながら...</p>

## 会員寄稿文

## ミステリ小説断想 (14)

福 富 直 明

## 1. ルーマニアの監視体制

前号の高木恒久さんのレニングラードでの優雅な週末の回想が面白かった。ホテルのカフェで昼食を取ろうとしていると、ロシア人の若い女性と相席になる。彼は即座にこの女性がKGBではないかと疑う。面白かったのは、KGBに監視されているのではないかという彼の反応だった。

KGBと言えば、CIAやMI 6の天敵であり、スパイ小説にもしきりに登場する。80年代末、モスクワでタクシーでルビャンカ広場を通ったとき、あれがKGBのビルだよと運転手が教えてくれた。まるで観光案内である。彼にすれば、KGBと聞けば外国人が面白がるのを知っていたわけだ。

1970年代のチャウシエスクが大統領だった時代のルーマニアに駐在したが、秘密警察の手先と泥棒に囲まれて暮らしているようなものだった。アーガスという人材派遣の政府機関があり、外国企業が現地人雇員を雇いたいときは、ここに申請すると、候補者を何人か送ってくる。多少ともケミカルの知識があって、英語の分かる人が欲しいと伝えてあるのに、英語は分かるが60歳くらいの弁護士あがりか来たりして、適材はまず見つからない。仕方なく、英語ができて、やる気のありそうな30歳代の男を雇った。現地雇員の給料は外貨でアーガスに支払い、アーガスが現地通貨で雇員に支払うことになっていた。

採用したのは、ニコラエ・Cという見かけは優しい顔つきの男だったが、あとになってみると、面接のときから、すでに変だった。何気ない会話を続けながら、雇ってくれたらあなたの知りたいような秘密情

報を報告しますとメモ用紙に書いて見せる。しゃべらずに紙に書いたのは、このオフィスは盗聴されていると思っていたのだろう。その時は彼が何を言いたいのか呑み込めなかったが、ともかく英語ができるので採用した。その後、あいつは私がスパイだと思い、そのスパイ活動を手伝いますと提案していたのだと思い当たった。外国人はみんなスパイだと思っていたようである。彼自身、私を監視する役目だった。近くの公園から帰る途中、歩きながら、今朝アーガスから呼び出されて、あなたのことを訊かれましたという。歩きながらというのは、盗聴される危険のない環境だ。今朝？この男、今朝はちゃんと定刻に出勤していたはずだがと思ったら、朝早く呼びだされ、定刻に間に合う時刻に解放されたようだ。アーガスも気を遣っている。何を訊かれたのかと尋ねると、我が国のことをどう思っているかといった質問でしたという。それなら心配することもない。ルーマニアの悪口を言っているにしても、ルーマニア人たちが口にする愚痴と同じ程度の悪態で、政府転覆を意図しているような過激なことは言っていない。それから、この男が呼び出されて聴取されているなら、ほかの現地雇員たちも呼び出されているはずだが、彼らが呼び出されましたなどとチクることはなかった。アーガスから当然緘口令が出ていたはずなのに、ニコラエだけは点数稼ぎを狙って、緘口令を無視したのだ。アーガスに監視されていることよりも、彼の無節操ぶりが記憶に残った。この男、忠義づらして告げ口するかと思えば、嘘をついて、仕事の担当範囲を変えてほしいといい、あとになって、あの話、嘘だったんですと人当た

りのいい口調で白状する。生まれつきの策士だった。

私は1978年に帰国した。80年か81年ころ、ニコラエがウイーンに出張した機会に、家族はルーマニアに置いたまま、亡命してしまったと聞いた。周到な準備をしていたようだ。その3、4年後、私はヒューストンの駐在していた。どうやって私がそこにいると嗅ぎつけたのか、米国のどこかから電話してきて、雇ってくれませんかというのが、断った。それから数年後、ニチメンを辞めて米国系メーカーの日本法人に勤めていたら、また電話してきた。いま東京にきているのですが、チャウシエスク政権も崩壊したから、ルーマニアとの取引は増えます、私を代理店に使いませんかという。このときも適当に断った。

ニコラエの話はまだ続く。2、3年してから、ニチメンの海外連絡部から電話が来た。シンガポール支店から、昔、ブカレストで私の下で働いていたという男が雇ってほしいと言っているが、どんな人物かとの照会が来たのですがという。ポール・ワグナーと名乗っていると聞いて、驚いた。そんな名前の男を雇ったことはなかったし、ニコラエ・Cという名前を捨てて、ドイツ人みたいな名に改姓するのはいかにもあの男らしい。しかも改姓したのを私が知らないことを見落としていたようだ。あるいは、シンガポール店は海連が私に問い合わせるとは予想しなかったのか。海連にはそんな人物は知らないと答えた。

チャウシエスク政権崩壊後、アーガスが秘密警察の一部門だったことが公表され、解体された。ルーマニアの貿易公団のなかに「壁に耳あり、スパイに注意」と呼びかけるポスターを張っているのを見かけた。ルーマニア語が分からなくても、内容が想像できる絵がのっていた。外国人との接触の機会の多い公団には、厳しい規制があっ

た。どの公団にもプロトコールと呼ばれる受付担当がいて、商談のアポイントを取るにはプロトコールを通さねばならないし、商談は公団の商談室のみで行い、公団側から2名以上出席せねばならない。具体的にいうと、5時まで商談室でネゴしていた男と6時に路上でばったり出会っても、相手は顔を背け、こちらに気が付かなかつたふりをする。こちらが声をかけたら、仕方なく、頷くだろうが、立ち止まって言葉を交わすのは避ける。公団以外の場所で外国人取引先と言葉を交わしているのを見られたら、トラブルに巻き込まれるのだ。

商談には2名以上の出席が必要というのは、二人がタグを組んでうまくネゴを進めるといった戦略的なものではなく、外国人に誘惑されぬように相互監視するためだった。ともかく独りで外人と商談してはならない。いつものネゴの相手に同行して、ファイルを何冊も抱えた初見の男が現れ、ファイルを持ってきたというのは、新しい引き合いかと思ったら、そいつは握手しただけで、ファイルを拡げて書類を作り始めた。何のことはない、担当者と私が商談を続けている間、ただ座っているだけの役割で出てきたのだった。自分の仕事をしながら、同僚を、一応、監視するというわけだ。

私の前任者がうまく手なずけて、魚心あれば水心あり的な友好関係だった男がいた。この男は、英語の全く分からない女子職員を同席させて、彼女は英語が分からないから何を言っても大丈夫だよと英語で言った。

公団のプロトコールは、公団の職員ではなく、内務省から派遣された連中、つまり秘密警察だと噂されていた。職員がプロトコールを警戒している気配は伝わってきたし、こっちの公団のプロトコールだった女性が、あっちの公団のプロトコールに移っていることもあった。特殊の技術や才能を必要とするとも思えぬ受付がほかの公団の受付に転職しているのが奇妙で、内務省内



の配転だなど推測できた。公団の職員を会食に誘っても、しかるべき筋の承認が必要で、会食に来るか来ないか、回答に2、3日かかったし、招いてもいないのにプロトコールが陪席することもあった。もっともプロトコールと仲良くしておけば、役に立つこともある。内地から偉いさんがきたときにプロトコールに頼んで、空港での通関を応接室経由のVIP待遇で通した。このプロトコールの謝礼には、確か米国煙草のケントを2カートン提供したと思う。あの頃のルーマニアではケントが通貨並みの効力を持っていた。

私が住んでいたのは築百年くらいの4階建ての建物で、1階から3階までは日本商社が1社ずつ入居し、4階にはルーマニア人の家族がいて、話し声は聞こえたが、別の出入口があったのか、3年間のうちに彼らと顔を合わせたこともなければ、何人家族だったのかも分からなかった。彼らも日本人との接触を禁止されていたようだ。

1973年か74年ころだったか、東京のルーマニア大使館に商務担当のモラリユーという男がいた。瘦躯長身、ぎょろ目の悪相が記憶に残る。当時、船舶部がルーマニアにタンカー3隻を成約し、その見返り契約を強制されて、とりあえず大型の農業トラクターを6台買い付けていた。モラリユーが来社して、もっと買えという。まだあの6台をテスト中であると時間稼ぎの返事をすると、「では技師を来日させよう。そうすれば6台のうち4台が不良品でも、技師が修理できるから」という。これには、呆れた。「6台のうち4台が不良品だったら」というのは売り手側の言葉とは思えない。せめて「どこかに不具合があったら」程度ならともかく、商務担当官にしては非常識な発言である。その後ブカレスト駐在になってから、この男のことを思い出して、現地雇員の一人に東京の大使館に妙な男がいたよという、名前を訊く。モラリユーだと告

げると、あゝ、あの男はスパイですよという。盗聴を恐れてか、スパイという言葉だけは声に出さず、口の形だけで、ス・パ・イと試してみせた。この一言で、あの非常識な発言の背景が一挙に解明されたように思えた。

ブカレストのオフィスの同じフロアに関西の中規模の専門商社の駐在員がいて、ブクールという運転手を雇っていた。小柄だが、筋肉の塊のようながっちりした体格で、いつも背広を着て、ホンブルグをかぶっていた。うちの運転手が休暇中に日本からの訪問者を空港まで送らねばならぬことがあり、タクシーの手配をしていたら、ブクールが聞きつけて、私が運転しましょうという。で、彼に頼むことにしたが、驚いたのは空港に着いてからだった。ブカレスト空港では搭乗までに3回荷物の検査があり、最初はカーテンで仕切った小さいスペースでボディタッチと手荷物の検査で、仕切りの前に搭乗客が数十人並んで順番待ちをしていたのだが、ブクールは彼らを飛び越して、うちの訪問者を列の先頭に押し込んだ。それをあまりにも堂々とやってのけたせい、列に並ぶ人たちは、割り込むなど詰るでもなく、黙って見ていた。ブクールの態度が権威のオーラを発散していたようだ。

翌日、秘書のイヴォンヌが、昨日はミスター・ブクールが空港に送ったのですねと、意味ありげな目つきでいう。ブクールを運転手に使ったことが、どこかで話題になっているらしい。さらにその翌朝、3階に住むI社の駐在員が雇っている老人のイリエ運転手と玄関で出会ったら、深刻な顔で私にささやく。ブクールがこの先の道端に駐車してあなたを待って張り込んでいる。あの男はよくない。あいつには気をつけなさいという。私はルーマニア語が分からないはずなのに、なぜか老人の警告は理解できた。しかし、そこからオフィスへは一本道

で、ブクールを避けようとしたら、大変な回り道になる。エイ、ままよと歩きだし、気づかぬふりをして彼の車の横を通り過ぎると、すぐに追い付いてきて、車のドアを開け、おはよう、乗っていきませんかという。オフィスまで、ほんの2, 3分だから、天気の話くらいしか出来なかった。

たったこれだけの話だが、イヴォンヌやイリエ老人の態度から見ると、ブクールを敵視し、惧れていたように思えてくる。それに空港での傍若無人の強引さ。あの男は秘密警察だったと思う。おかしいのは、モラリューにせよ、ブクールにせよ、彼らが秘密警察であるのをルーマニア人たちは知っていたことだ。秘密警察の所属であることはルーマニア人には秘密ではなかったのかもしれない。

1970年代の半ばにモスクワに数度出張したが、公団のオフィスで商談をしたことは一度もない。いつも公団側が3, 4人、ニチメンのオフィスにきて、ネゴをした。ルーマニアのプロトコールのようなお目付け役が付いてくるわけでもなく、なかには一人で来て、1対1で書類倉庫みたいな狭い密室でネゴをしているのを見たこともある。英語のペーパーバックを読んでいる女性事務員がいて、なんとそれがジェイムズ・ボンド物だったので、嘔き出してしまったら、彼女もクスッと笑った。

ブダペストに出張したとき、公団の担当者ホテルの予約を頼んでおいたのに、空港の迎えに来てくれたのはいいが、連れていかれたのは、誰かのアパートだった。クロゼットを開けると、衣類がかかっている、ほんの1時間前まで家の住人がそこにいたような生活臭があった。翌朝、公団の男があの家へのお礼に何ドルか置いておいてくれと言った。ひょっとすると彼の家だったのかも知れない。ポーランドでも民宿し、その家族と和気藹々の会話をした。個人

の家に泊まるなんて、ルーマニアでは考えられぬことだった。

今になって見ると、ソ連等コメコン諸国の中で、外国人に対する監視体制はルーマニアがけた違いに厳しかったように思える。

インターネットによると、チャウシエスク政権時代の秘密警察は内務省傘下の国家保安局、Securitateと呼ばれ、その規模は人口比で東側諸国の中で最大、孤児院から優秀な子供を選んで洗脳・訓練したという。家族のしがらみのない者を選ぶ着眼が恐ろしい。

## 2. 駐在員生活の格差

ルーマニアのことを書いているうちに、海外駐在員の給与体系なるものはどうやって作ったのかなと思った。生水は絶対に飲めないし、安心して食事ができる店も見当たらない土地もあれば、酒も映画館も音楽会もない国もある。快適な素晴らしい気候、きれいな街並み、食べ物もおいしい国もあれば、デスクの引き出しに鍵をかけるのを忘れて帰ったら、必ず、何か盗まれている国。現地人との家庭的な雰囲気付き合いは論外、敵視・警戒され、秘密警察の手先だらけの国もある。給与体系を作ったとき、各地の家賃とか食費・物価のように数字で表せるものは組み込まれただろうが、数字にならない生活環境の格差は加味されていたのだろうか。

終わり



## 会員寄稿文

# 上海の今と昔

中 田 龍 彦

### 外灘：

上海租界の外灘（バンド）<sup>1</sup>にあった黄浦公園<sup>2</sup>に「犬と中国人入るべからず」という札が掲げられたのは、世界史における有名な逸話である。租界時代の上海の外灘には香港上海銀行、パレスホテル、サッスーンハウス、ジャーディン・マセソンビル等の当時最先端を行くビルが立ち並び、欧米列強による支配を受けた中華民国の租界の象徴だった。外灘のガーデンブリッジ（現・外白渡橋）を渡ると旧日本人租界へと繋がる。私が上海に5年間駐在した1980年初頭の黄浦公園の夕方はあちこちに中国人の若いカップルが鈴なりで眼のやり場に困った。

当時はサッスーンハウス（現和平飯店北



現在のバンド：写真中央の三角屋根の建物がサッスーンハウス

楼）の1階から3階はオフィスとして貸し出された。サッスーンの家と子会社は4階に居を構えていた。5階から7階にかけてはサッスーン家の経営するキャセイ・ホテルが入店、同ホテル最上階10階はヴィクター・サッスーン卿が使用していたプレジデンドスイートがあり、バンドを行交う往來の船を眺めることが出来る。キャセイ・ホテルは上海で最も名門のホテルであった。上海を訪れる大使の多くがこのホテルに滞在した。サッスーンハウスの南京東路を挟んだ南側の建物は現在和平飯店南楼であるが、当時はパレスホテルであった。



現在の外灘：中央の緑の場所が黄浦公園、背後に外灘のビル群が建っている

- 1 外灘（ワイタン、ピンイン：Wàitān、がいたん）あるいはバンド（英語名：The Bund）は、中国・上海市中心部の黄浦区にある、上海随一の観光エリアである。黄浦江西岸を走る中山東一路沿い、全長1.1kmほどの地域を指す。
- 2 パブリックガーデン。外灘の北端にあり、上海市民の憩いの場としても活用されている、黄浦公園。黄浦公園は、1868年に造園された公園で、当時は外国人専用の公園だった。その後、一般市民にも開放され現在に至っている。

バンドの船着場から一日数便バンドを往復する大型の遊覧船が就航している。この船に乗ってバンドの西側に並ぶ租界当時の建物が見え、租界当時の上海の情景を伺えるのは、往時の上海を彷彿とさせてくれる。遊覧船は片道2時間強を掛けて、バンドを北上し、長江へと流れ出る呉松口という地点まで進む。長江は対岸が見えず、海に出たのではとの錯覚を受ける。また崇明島<sup>3</sup>という巨大な中洲の島があり、ここにも沢山の人々が住んでいる。長江は世界で三番目に長い川で全長6,300kmあり、傾斜はなだらかなため、上流から運ばれてくる土砂は非常に小さな粒となり水中に浮遊する。この為、川の水の色は薄褐色であり、船の上からは見る水面は透明度が全くない。

長江を呉松口から更に20km下ると、長江は東シナ海へと繋がる。飛行機から長江の河口を見ると長江から流れ出す泥色の大量の褐色の大きな流れが東シナ海へ注ぐ。淡水と海水がなかなか混じり合わず、長江から吐き出される水量の大きさを実感する。

### 鄧小平の改革開放政策と上海市浦東開発新区：

中国は建国後30年間にわたる統制経済、東西冷戦や中ソ対立により「自力更生」を強いられ、生産力、技術水準は西側諸国に大きな遅れをとっていた。また政治的には

1966年から10年におよぶ文化大革命の混乱が一応収まり、1976年に周恩来首相、毛沢東国家主席が相次ぎ死去、四人組逮捕(江青、張春橋、姚文元、王洪文)され、1977年に鄧小平が復権、「経済建設」へと大転換することを決定。表向きは社会主義を堅持した上で、部分的には資本主義的な要素を取り入れた経済を活性化し、遅れた技術と不足する資金は海外に求めるという「いいところ取り」を進めようとした。これが現在まで中国が一貫して進めてきた「改革・開放路線」がスタートである。1989年の天安門事件発生以降、「改革・開放路線」の目玉として国家プロジェクトとして推進したのが「上海市浦東開発新区」である。1990年、国務院は上海浦東開発・開放の重大決定を発表し、陸家嘴・外高橋・金橋という3つの国家級開発区を設立、それから30年の歳月を経て上海市は人口2,250万人(2020年)の中国最大の経済都市に発展した。

下記の2つの写真をご覧頂きたい。1990年代の上海市の写真に白い楕円で囲んだ部分には高層ビルは全くなく、未利用の土地と農地が広がっていた。黄浦江の西側を浦西、同東側を浦東と呼ぶが、浦西には沢山のビル・工場・住宅があったが、浦東には黄浦江沿いに上海造船所・江南造船所・沪東造船所等の造船所以外は殆ど工場がな



1990年代の上海市(手前側が浦西、奥側が浦東)  
出所：上海市浦東新区政府



現在の上海市浦東新区陸家嘴街の金融・オフィスビル群  
(写真左側中央)と外灘(写真右側)出所:Shanghai 1990 vs 2010

3 崇明島の面積は約1225平方kmあり、東西約80km、南北約15kmあり、中華人民共和国が主張するところの台湾島、海南島に次ぐ三番目に大きい島である。



かった。また浦東と浦西を繋ぐ橋は1本もなく、1971年に黄浦江の川底に掘って完成した自動車用トンネルの打浦路トンネルで移動する必要があった。また黄浦江を渡し船（輪渡）で横断するのが市民の唯一の移動方法だった。

前掲写真が現在の浦東と浦西の写真である。左の写真の白い楕円の部分に浦東新区陸家嘴金融街に所狭しと摩天楼が聳え立っている。写真の中で一際高いビルが上海中心大厦（Shanghai Tower）で高さは632mの119階建ての中国で最も高い超高層ビルであり、世界でもドバイのブルジュ・ハリファ（828m）に次ぐ高さの超高層ビル（塔も含む建造物全体では、2m高い東京スカイツリーに次ぐ3番目の高さ）。また2020年6月時点で浦東と浦西を繋ぐ海底トンネルは16本、高架橋が12本設置され自由に行き来が出来るようになり、浦西と浦東のアクセスが飛躍的に改善、一体的な都市開発を実現した。

### 旧フランスクラブ：

この建物は1903年に設立されたドイツクラブ（Deutscher Garden Klub）にあった。しかしドイツが第一次世界大戦に負けたため、同施設はフランスに接收され、以来フランス・クラブ（Cercle Sportif Francais）となった。クラブハウスとして現在残る建物（正面ファサードと東側旧エントランス部分、2階グラウンド・ボールルーム、その他会議室）は1926年若手フランス人建築家レオナルとヴェセールにより建設された。これらは現在、上海花園飯店正面玄関部分、多目的ホール、会議室として使用されている。ネオ・バロック風の外観と植物などをモチーフとしたアールデコの豪華な内装、さらには2,800平米の前庭を持つ優雅な姿が、今も訪れる者を当時の上海に引き込み、租界時代の上海に戻ったような錯覚を覚える。当時、クラブの庭には20面のテ

ニスコート、屋内にはオリンピック競技サイズの室内プール、その脇にカフェバーが作られ、更にビリヤード室、カードゲーム室、喫煙室、床にダンス用のスプリングボードが施されたボールルーム、それに幾つもの素敵なレストランがあった。



旧フランス・クラブ正面ファサード



同東側旧エントランス部分



同2階グラウンド・ボールルーム



### 上海の味：

中国料理は、「南淡北咸・東甜西辣」（南は薄く、北は塩辛く、東は甘く、西は痺（しびれる）ように辛い）が基本といわれており、北京、上海、四川、広東の四大料理体系がある。上海近郊（江蘇省、浙江省）は、温暖な気候で、米、酒、味噌の産地のため、醤油味でこってりと砂糖を多用した甘いものやあんかけが多く、日本人の好みとも重なる部分がある。上海で美味しいものは何か？ 秋口の「上海蟹」と豫園の「南翔小籠包」だと思う。

上海蟹の和名“チュウゴクモクズガニ”、淡水性のため中国では「河蟹 héxiè」「清水蟹 qīngshuǐxiè」とも呼ばれ。幼生は海水から汽水域で育ち、親蟹は雄、雌とも産卵のために河口や海岸に移動する。主に秋に、

河口で生殖したのち、雌が海水域に移動して産卵する。一般には「大闸蟹」（ダージャーシエ dàzháxiè、上海語：ドウザツハ）と呼ばれている。輸送中に動き回ると、はさみで傷つけあったり、足が取れたりして、傷が付くため、藁や紐で十文字に縛って生きたまま売られている。

最も有名な産地は、中国江蘇省蘇州市にある陽澄湖（ようちょうこ）で、高値で取り引きされるため、別の産地で育ったものを、陽澄湖の養殖池の水に浸けただけなどという偽物も出回る。陽澄湖で育てたものには、はさみにタグを付けたり、甲羅にレーザー光線でマークを焼いたりして、区別をすることが行われている。またオスとメスで食べ頃が違う。これもブランドの一種と言えよう。

中国語では「九园十尖」と言われ、旧曆



上海蟹



豫園商場「南翔饅頭店」の小籠包（しょうろんぼう）

小籠包

の9月はお腹が丸いメスの甲羅の卵(蟹黄)、同10月はお腹の尖ったオス蟹の味噌(蟹膏)がうまいと言われている。

最も一般的な調理法は、蒸し器に入れて、15分~20分蒸し上げる。蒸し上がったら、藁や紐を切って、皿にのせて食卓に出す。生姜の糸切りを入れた、鎮江産などの黒酢で味を付けて食べる。中国医学の考えでは、蟹は体を冷やす性質の食べ物であり、体を温める作用のある生姜と酢で、バランスをとることを目的としている。上海で駐在している時の日曜日の昼、町のあちこちの道端で売られている上海蟹を買って来た。宿舎にしていた上海錦江飯店中樓の部屋のバスタブに上海蟹を入れておいた所、その内の何匹かが脱走し、部屋のどこかに消えてしまった。ホテルボーイ(当時は同志<sup>4</sup>と呼んでいたい)に探してもらった所、脱走した上海蟹を見つけてきた。どうもソファやベッドの下に逃げ込んでいたらしい。ボーイが何時も使用しているコップ消毒用の大きなバットに上海蟹を入れて蒸した。紐で縛っていなかったため、蒸気で蒸されるのを嫌がる蟹がバットの中を逃げ回り、手足が抜けた蟹が殆どだった。しかし、それでも食べてみると美味しい。

尚、上海には上海蟹尽しが食べられる専門店があり、「王宝和」「成隆行蟹王府」「新花城蟹粉館」等が有名。

小籠包は豚の挽肉を薄い小麦粉の皮で包んで蒸籠蒸した包子である。特徴として薄皮の中に具と共に熱いスープが包まれている。小籠包の起源は1871年に中国の嘉定県南翔鎮(現・上海市嘉定区南翔鎮)の菓子屋「古猗園」の店主黄明賢が売り出した「南翔大肉饅頭」にある。具を大きく皮を薄くし、簡単に真似ができないよう技術的な

改良を加えた「古猗園南翔小籠」を販売し、たちまち有名な饅頭としてもはやされた。「南翔小籠包」と呼ばれている。大きさは一般的な肉まん(肉包子)と比べてかなり小ぶりで直径は約3センチメートル程度。大きさからいえば焼売に近い。皮は小麦粉を半ば発酵させ、よくこねたものを円形に薄く延ばし広げて作る。特徴のスープは元々のレシピでは豚皮を煮込んで冷やした肉皮凍という煮ごり(ゼラチン)を豚の挽肉に混ぜ込む。このゼラチンが蒸籠の高温で蒸され、溶けてスープとなる。熱々の肉汁(スープ)を含んだジューシーな味わいがその最大の特徴。従って冷めたものではその特徴が出ず、蒸したてをフーフー言いながら、箸でつまみ、レンゲの上に乗せ、スープをこぼさないようにして味わう。

たれは酢(鎮江香醋、いわゆる日本でいう黒酢)だけか、これに醤油を混ぜたものを用い、これに千切りにした生姜を混ぜる。上海旧市街の豫園商場内にある「南翔饅頭店」が本家を名乗っている。同店は六本木ヒルズにも出店している。決して高級料理ではなく庶民の味である。

おわり

4 同志(どうし)とは、同じ目的のために協力する仲間を指す言葉。社会主義運動家が多く用いる。ロシアでは、別語源の товарищ が使用され、1917年のソビエト連邦成立後に、広く使われるようになった。中国では、孫文が同志(tóngzhì, トンジー)という言葉を使い始めたとされている。1949年の中華人民共和国成立後も、中国国内で広く使われるようになった。

## 会員寄稿文

## 世界遺産キナバル山(海拔4,095m)絶景

奥村 睦夫



キナバル山は、東マレーシア・サバ州の州都で木材本部南洋材部隊の事務所があったコタ・キナバル市東方にそびえる1000万年前に溶岩が固まった大きな岩の塊（写真参照）で、古来より地元カザサン族から“神の山”として崇められている。2000年には「世界自然遺産」に登録されています。

筆者にとり、3度の当地駐在、及び十数度の出張の際に見たお馴染みの山で、いつかは登ろうと思っていた憧れの山。古希を真近に控えた2015年、“体力的に登れるのは今だ！”と山仲間を誘って挑戦しました。

計画するに際し、橋口喜郎さんと細井衛さん（過去3度キナバル山に登頂、昭和39年入社）から貴重なアドバイスをいただきました。ありがとうございました。

**参加者：山爺3名、山ガール4名 筆者は計画立案・航空券・宿泊予約・リーダー・通訳・会計など**

**2015年5月23日：**成田発マレーシア航空直行便でKK(KOTA KINABALU)へ、20:20着

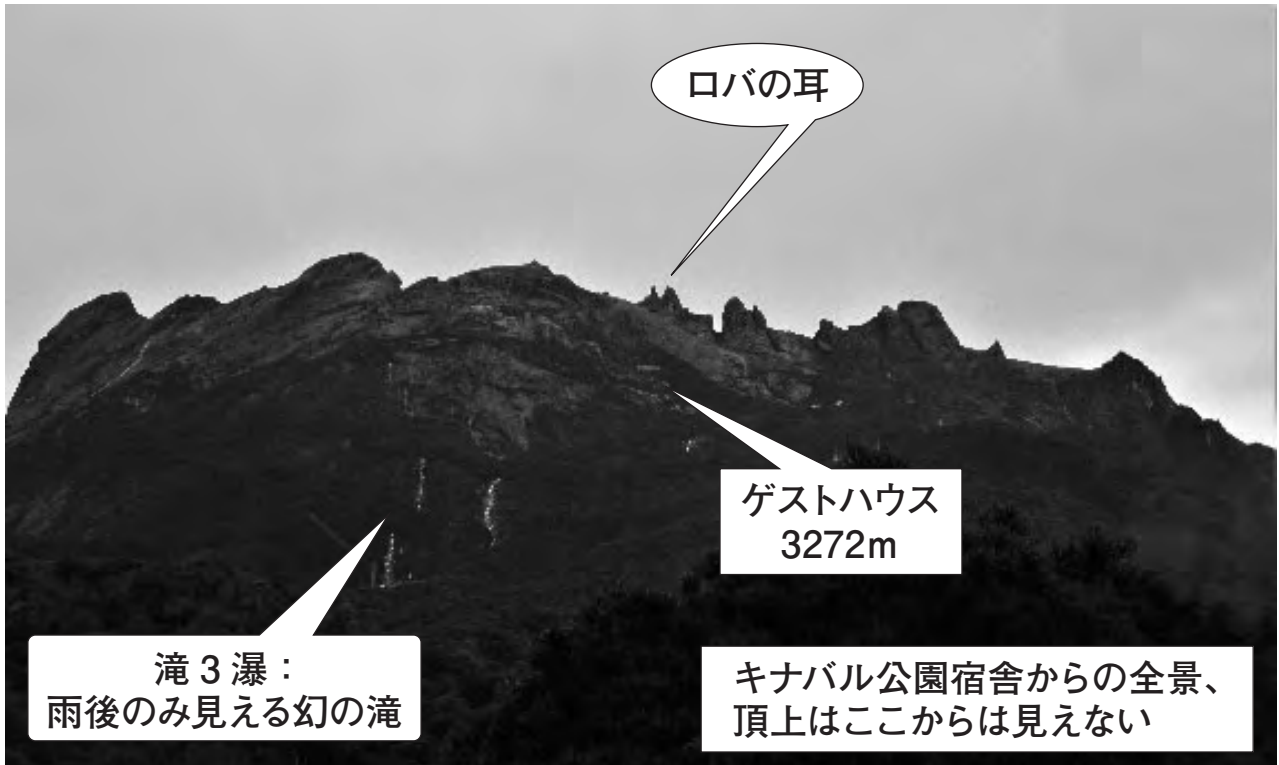
\*コタキナバルは旧名を「ジェッセルトン」と言い、英領北ボルネオ時代の名残が市内各地に見られ、現在は観光地として売出中。南洋材部隊の初代サンダカン事務所(1960年代)に続き、1980年代半ばに事務所を設置、サバ州、サラワク州産木材商い(原木、製材、合板など)の前線基地でした。

**5月24日・25日：**山小屋予約の確認(注、日本からオンライン予約済み)、熱帯初体験メンバーの為に気候慣らし、脚慣らしの為、市内ウォーキング。「双日フォレスト・プロダクツ社」表敬訪問。

**5月26日：**コタキナバル市内からキナバル公園(標高1563m)へ移動、入山の諸手続き(入山料納付、ガイドとの顔合わせほか)し、公園散策後、予約済みの登山者専用の公園内の小屋に宿泊。

**5月27日：**早朝バスで約4キロ離れた標高1867mの登山ゲートへ、07:40登山開始。約6キロ、高低差約1400mのラバンラタ・ゲストハウス(標高3272m)に13:40到着。約100名が泊まれる大型の山小屋(数棟)で、一般は「大部屋、雑魚寝、2段ベッド」だったが、我らは10名用個室2段ベッド、専用シャワー、専用トイレなど。食事も文句なし、納得です。





5月28日：02：30ゲストハウス発（ヘッドランプ着用）、距離約2.5キロ、高低差約800m歩き、06：50山頂（ローズ・ピーク：4095m）着。天候好し、ご来光と絶景を楽しむ。



ラバンラタ・ゲストハウス



日の出直後のキナバル山の影  
はるか彼方に南シナ海



山頂（ローズ・ピーク）標高 4095m



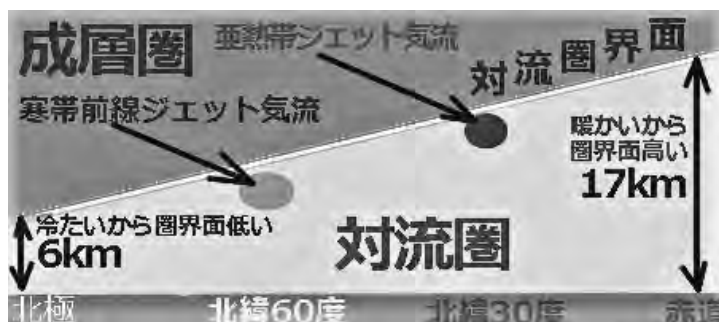
**ラバンラタ・ゲストハウス本館**  
 本館の近くにある5棟は宿泊大部屋、ガイド専用部屋、倉庫など。雲の下あたりにラナウの街、はるか向こうにケニンガウの街など撮影場所（標高3800m付近）は森林限界、これより上は岩だらけ。下山途中での絶景。

- 5月28日：08：50ゲストハウス帰着、遅めの朝食を済ませ、キナバル公園へ下山。登山証明書を取得し、迎いのチャーター・ミニバスで夕刻KK市内のホテルにチェックイン。
- 5月29日：終日フリー。シャングリラホテル（旧タンジョン・アル・ビーチホテル）で豪華ランチ、ビーチ散策後、市内散歩、ディナーはサンセットを眺めながら中華料理。
- 5月30日：07：40発マレーシア航空機で成田空港へ、解散。  
 ※機中では、20年ぶりに筆者KK駐在時の現地雇員だったアレックス君（日本観光旅行で同機に搭乗）と遭遇するうれしいおまけまであった。

費用（ex34.30円/M\$）：@147千円＝往復航空券：@62,900円＋市内ホテル代（3泊）＋山小屋（2泊、@34,400円）＋食事交通費など実費

**高山病対策：**

- ➡標高が4000M超なので「高山病」の心配があったが、呼吸は全く問題なしだった。内地出発前に、同行メンバーから酸素ボンベ持参すべしかとの問題提起あり、各種文献を調べた結果、赤道付近は地球自転による遠心力が両極地帯に比べ大きく、重力が0.5%ほど小さくなる事、また熱帯特有の上昇気流で大気圏が膨らみ、この標高でも通常通りの呼吸と酸素摂取ができる由で、なるほどそうかと納得した次第。
- ➡この重力の違いにより、赤道付近で測る体重は両極で測る体重より、0.5%ほど軽くなるそうです。即ち、80Kgの方で400gほど軽くなるのです。



因みに、富士山での対流圏の厚みは13～14km

追) 我らの下山の1週間後の2015年6月5日地震(M6.0)が発生。頂上付近の崩落、ロバの耳(Donkey's Ears)の片耳も崩落、日本人一人を含む18人が死亡する大惨事となった。

※6月初頭に山頂付近で、白人達(男6名、女4名)が全裸写真を撮影していたことが発覚、“「神の山の精霊が怒り地震を起こした」と地元民が激怒”との報告を入手。

日本的に言えば、「山の神の祟り」である。

⇒山好きの方へ：山中、山頂ではけっして「全裸」にならないようにしましょう。

但し、心身(人生旅・登山など)の癒し目的での“温泉入浴”はご存分にどうぞ!



おわり



## 会員寄稿文

# W E S T

山 邑 陽 一

昨年9月21日の早朝、妻が亡くなった。眠いとか、しんどいとか小声でつぶやきながら、前夜左を下にして横向きに寝て、その姿のまま安眠中に、急性心不全で朝亡くなっていた。

私も妻も戦前の都会生まれで、小学校に入る前に戦争が始まっていて、戦中戦後の食糧難の中で、長い間栄養不良であった。人生80年を1年(1月1日から12月31日まで)になぞらえ、人生は冬から始まるという私の考え方はここから来ている。私も妻もこのとおりに生きて、妻は80歳半で亡くなった。

私は80歳以降(余生)の目的を妻の介護においてきたが、その妻が急死したので、余生の目的を今後は自分自身の健康長寿に絞り、英文の四文字熟語 WEST (Walk, Eat, Sleep and Think) を作った。だれもがいう walk, eat, sleep の他に think を入れたのは、最近認知症予防がよく言われるようになったからである。そのためには、読書や他人とのコミュニケーションによって知的刺激を得続けることが必要とされ、書店・画廊・

文化教室・映画館・図書館・コンサートホールなど、そのための施設は多いが、現住の老人ホームにも多くの交流・文化サークルがあるほか、最近は麻雀のサークルができた。親睦と老化防止のために参加しているが、人生の先輩の方々の元気で頭の良いプレーに感服する。現住の老人ホームは各階ごとの廊下が長く、雨天時などの屋内ウォーキングにも適している。

麻雀といえば、昔ニチメンにいたころ、中国の広西チワン族自治区梧州での松脂加工工場の合弁子会社作りに参画して何度も梧州に出かけたが、梧州の親工場の庭にはたくさんの麻雀台が置かれていて、工場OBのチワン族の人たちが、午後の日差しの陰で麻雀を楽しんでいた。いわば親工場の社友会の麻雀サークルである。私たちの社友会にも親睦会やOB会・同好会・会員寄稿があつて、交流の機会が多い。社友会にも大いに出席・参加・寄稿して、大いに WEST しよう。

(2022. 3.20、WESTing-houseとして利用中の現住老人ホームにて)



## 会員寄稿文

## ク ラ リ ー ノ

山 邑 陽 一

私が現住する老人ホームで今春の川柳コンクールがあり、入居者のお一人が最多得票を得て入選された。いわく、「モメゴトはそだねそだねで丸くなり」。現実にはウクライナ戦争が長引いてモメゴトが絶えないが、ほっとした一瞬であった。

北京オリンピックでの日本女子カーリング・チームの活躍の裏には、人工皮革クラリーノの手袋があったと、テレビ放送で知った。このクラリーノについては、私の東京勤務時代の思い出がある。

東京ニチメンの日本橋分室は東京駅にも丸善・高島屋にも近く、すばらしい立地であった。岩井産業から譲り受けたそうである。クラレやオンワード樫山など、多くの

繊維メーカー・繊維商社のビルにも近かった。日本橋分室から日本橋方面に向かって少し行くと、三州屋という大衆食堂があった。日本橋分室の地下にも社員食堂があったが、社員は昼食時には外へ出かけることが多く、「砂場」のそばは人気があったが、私は靴を脱いで座る三州屋を愛用していた。

ある日三州屋で昼食して帰り、午後の仕事に取りかかったとたん、三州屋から「お靴を間違えておられませんか。間違えておられるなら、至急クラレのKさんにお返し下さい」と電話があった。あわてて靴を見ると、牛皮製の軽くてりっぱな、私には似合わない靴が私の足に付いていた。すぐに手ぶらでその靴を履いてクラレに向かい、Kさんの職場へ靴を返しに行った。Kさんは私が靴を返すとすぐ、ニコニコしながら職場の机の下に大切に保管してあった私の靴を持ってきて返してくれた。

Kさんが終始ニコニコして私が何のお叱りも受けなかったのは、私の靴がクラリーノだったからかもしれない。当時クラリーノは、一世を風靡して流行したサラリーマンたちの愛用の靴であった。私もクラリーノを履いて鼻が高くなり、花形サラリーマンになったつもりで隔週末に東海道五十三次を新幹線でぶっ飛ばして、大阪と日本橋を往復していた。若き日の楽しい思い出である。このような思い出を作ってくれたニチメンへの感謝でもある。

(2022.3.20)



## 会員寄稿文

# これからもずっと聴いて歌って行きたい名曲184

齋 富 造

世に「歌いたい名曲」は星の数ほどありますが、私（今年4月1日で満88歳）の独断と偏見で、「これからもずっと歌って行きたい名曲として184曲を纏めてみました。

幼少期に両親の蓄音機にレコード盤をかけて聴き覚えた「あ、それなのに」、「船頭可愛や」、「野崎小唄」など。小学校時代は、「愛国歌と軍歌」を散々聞かされ育ちました。学生時代を経て、社会人となり、福島大グリーン、FMC、ニチメンコーラス（故島村財務部長父子指揮）、三友合唱団、NHK仙台、フォンテ、柏市民、フロイデ、歌の広場、あさひ歌声サークルなどなど、コーラスの皆様にも恵まれて73年間歌って参りました。

9月24日（土）午後2時から、流山おおたかの森スタートホールにて、フォンテ47回定演で「日本の歌シリーズ」を合唱致しますので、どうぞ聴きにおいでください。

健康で居られるならば、これからも歌い続けて行きたいと思っておりますので、皆様、よろしくお願い申し上げます。

### その184曲とは、

あ、それなのに(美ち奴):空にや今日もアドバルン～  
 愛のフィナーレ(菅原洋一):恋の終わりは涙じゃないの～  
 青葉城恋唄(さとう宗幸):広瀬川流れる岸辺～  
 明日があるさ(坂本九):いつもの駅で いつも逢う～  
 いつでも夢を(橋幸夫・吉永小百合):星よりひそかに～  
 一杯のコーヒーから(霧島昇・ミスコロンビア):一杯の～  
 上を向いて歩こう(坂本九):上を向いて歩こう、涙～  
 栄冠は君に輝く(伊藤久男):雲は湧き光あふれて～  
 おさななじみ(デュークエイセス):おさななじみの～  
 女ひとり(デュークエイセス):京都大原三千院～  
 学生時代(ペギー葉山):つたの絡まるチャペルで ～  
 鐘の鳴る丘(川田正子):みどりの丘の赤い屋根～  
 川の流れのように(美空ひばり):知らず知らず歩～  
 聞かせてよ愛の言葉を(金子由香里):聞かせてよ～  
 切手のないおくりもの(財津和夫):私から あなた～  
 今日でお別れ(菅原洋一):今日でお別れねもう逢～  
 銀色の道(ダークダックス):遠い遠いはるかな道～  
 黒い花びら(水原弘):黒い花びら静かに散った ～  
 公園の手品師(フランク永井):鳩が飛び立つ公園～  
 高校三年生(舟木一夫):赤い夕陽が校舎を染めて～  
 古城(三橋美智也):松風さわぐ丘の上～  
 この広い野原いっぱい(森山良子):この広い野原～  
 この世の花(島倉千代子):赤く咲く花青い花～  
 五番街のマリーへ(ペドロ&カプリシャス):五番街へ行ったならば マリーの家へ行き どんなくらし ～

愛の讃歌(越路吹雪):あなたの燃える手で私を～  
 青い山脈(藤山一郎):若く明るい歌声に～  
 憧れのハワイ航路(岡晴夫):晴れた空そよぐ風～  
 雨に咲く花(井上ひろし):及ばぬことと諦めました  
 糸 (中島みゆき):なぜめぐり逢うのかを～  
 いのちの歌(竹内まりや):生きてゆくことの意味～  
 宇宙戦艦ヤマト(ささきいさお):さらば地球よ～  
 丘を越えて(藤山一郎):丘を越えて行こうよ～  
 思い出のアルバム(芹洋子):いつのことだか～  
 帰ろかな(北島三郎):さびしくて言うんじやないが～  
 影を慕いて(藤山一郎):まほろしの影を慕いて～  
 からたち日記(島倉千代子):心で好きと叫んでも ～  
 君恋し(フランク永井):宵闇せまれば悩みは涯なし～  
 君こそわが命(水原弘):あなたをほんとは～  
 君といつまでも(加山雄三):二人を夕闇が～  
 君の名は(織井茂子):君の名はとたずねし人あり～  
 今日の日はさようなら(唱歌):いつまでも～  
 くちなしの花(渡哲也):今では指輪も回るほど ～  
 恋心(岸洋子):恋は不思議ね消えたはずの～  
 高原列車は行く(岡本淳郎):汽車の窓から～  
 ここに幸あり(大津美子):嵐も吹けば雨も降る ～  
 この道(抒情歌):この道はいつか来た道～  
 ゴンドラの唄(森繁久弥):命短し恋せよ～



さざんかの宿(大川栄策):くもりガラスを手で～  
 サントワミー(越路吹雪):二人の恋は終わったのね ～  
 サンフランシスコのチャイナタウン(渡辺はま子):サン～  
 時代(中島みゆき):今はこんなに悲しくて涙も～  
 ジョニーへの伝言(ペドロ&カプリシャス):ジョニー～  
 知りたくないの(菅原洋一):あなたの過去など知りたく～  
 人生の扉(竹内まりや):春がまた来るたびひとつ年を～  
 瀬戸の花嫁(小柳ルミ子):瀬戸は日暮れて夕波小波～  
 蘇州歌曲(渡辺はま子):君がみ胸に抱かれて聞くは～  
 黄昏のビギン(水原弘):雨に濡れてた たそがれの街～  
 小さな喫茶店(菅原洋一):それは去年のことだった～  
 東京の花売娘(岡晴夫):青い芽を吹く 柳の辻に～～  
 東京ブギウギ(笠置シズ子):東京ブギウギ リズムうき  
 遠くへ行きたい(ジェリー藤尾):知らない街を歩いて～  
 長崎の鐘(藤山一郎):こよなく晴れた青空を～  
 長崎は今日も雨だった(内山田洋とクールファイブ):  
 あなた一人にかけた恋 愛の言葉を信じたの ～

野崎小唄(東海林太郎):野崎参りは屋形船でまいる～  
 埴生の宿(唱歌):埴生の宿も 我が宿 ～ ～ ～  
 二人は若い(ディックミネ・星玲子):あなたと呼ばばあなた  
 フランチェスカの鐘(二葉あき子):あ、あの人と別れ～  
 故郷を離るる歌(ダークダックス):園の小百合 撫子～  
 星影のワルツ(千昌夫):別れることはつらいけど～ ～  
 また逢う日まで(尾崎紀世彦):また逢う日まで逢える時～  
 見上げてごらん夜の星を(坂本九):見上げてごらん夜の～  
 胸の振子(霧島昇):柳に燕は あなたに私～ ～  
 椰子の実(抒情歌):名も知らぬ遠き島より ～ ～  
 有楽町で逢いましょう(フランク永井):あなたを待てば～  
 夢であいましょう(坂本スミ子):夢であいましょう ～  
 夜霧よ今夜も有難う(石原裕次郎):しのび会う恋を ～  
 ラストダンスは私に(越路吹雪):あなたの好きな人と～  
 ローレライ(抒情歌):なじかは知らねど 心わびて～

### <春>

仰げば尊し(唱歌):仰げば尊し わが師の恩 ～ ～  
 すみれの花咲く頃(宝塚歌劇団):春すみれ咲き 春を～  
 花 (抒情歌) :春のうららの墨田川 ～ ～ ～  
 春が来た(唱歌):春が来た 春が来た どこに来た ～  
 春よ、来い(松任谷由美):淡き光立つにわか雨 ～ ～

### <夏>

雨降りお月(童謡):雨降りお月さん 雲のかげ ～  
 朧月夜(唱歌):菜の花畠に 入日うすれ ～ ～  
 鯉のぼり(唱歌):いらかの波と雲の波 ～ ～  
 茶摘(抒情歌):夏も近づく八十八夜 ～ ～  
 夏は来ぬ(唱歌):卯の花の匂う垣根に ～ ～ ～  
 浜辺の歌(抒情歌):あした浜辺をさまよえば ～ ～

さらば恋人(堺正章):さよならと書いた手紙～  
 四季の歌(芹洋子):春を愛する人は～  
 幸せなら手をたたこう(坂本九):しあわせなら ～  
 証城寺の狸囃子(童謡):come come everybody～  
 知り過ぎたのね(ロスインディオス):知り過ぎた～  
 白い花の咲く頃(岡本敦郎):白い花が咲いてた ～  
 鈴懸の径(灰田勝彦):友と語らん～～  
 船頭可愛や(音丸):夢も濡れましょ～～  
 そっとおやすみ(布施明):化粧の後の鏡の前で～  
 誰か故郷を想わざる(霧島昇):花摘む野辺に陽は～  
 東京キッド(美空ひばり):歌も楽しや ～ ～ ～  
 東京の屋根の下(灰田勝彦):東京の屋根の下に～  
 東京ラブソディ(藤山一郎):花咲き花散る宵も～  
 ドレミの歌(伊藤恵里):ドはドーナツのド レは～  
 涙くんさよなら(坂本九):涙くんさよなら さよなら～

箱根八里(唱歌):箱根の山は天下の険～ ～ ～  
 遙かな友に(ボニージャックス):静かな夜更けに～  
 フニクラ・フニクラ(童謡):赤い火をふくあの山へ～  
 故郷(唱歌):兎追いしかの山 小鮒釣りしかの川～  
 星影の小径(小畑実):静かに静かに 手を取り～  
 蛍の光(唱歌):蛍の光 窓の雪 ～ ～ ～  
 真夜中のギター(千賀かほる):街のどこかに淋し～  
 港が見える丘(平野愛子):あなたと二人で来た丘～  
 もしもピアノが弾けたなら(西田敏行):もしもピアノ  
 柔(美空ひばり):勝つと思うな 思えば負けよ ～  
 夢淡き東京(藤山一郎):柳青める日 燕が銀座に～  
 夜明けのうた(岸洋子):夜明けのうたよ 私の～  
 ラブ・イズ・オーヴァー(欧陽菲菲):ラブイズオ～  
 リンゴの唄(並木路子):赤いリンゴに 口びるよ～  
 忘れ草をあなたに(菅原洋一):別れても別れても～

北国の春(千昌夫):白樺 青空 南風 ～ ～ ～  
 早春賦(抒情歌):春は名のみ 風の寒さや ～ ～  
 みかんの花咲く丘(童謡):みかんの花が咲いている  
 春の小川(唱歌):春の小川はさらさら流る ～ ～

海 (唱歌):松原遠く 消ゆるところ ～ ～  
 思い出の渚(ザ・ワイルドワンズ):君を見つけた～  
 サンタルチア(唱歌):空に白き 月の光 ～ ～  
 夏の思い出(抒情歌):夏が来れば 思い出す ～  
 浜千鳥(抒情歌):青い月夜の浜辺には ～ ～  
 牧場の朝(唱歌):ただ一面に立ちこめた ～ ～

山小屋の灯(近江俊郎):黄昏の灯は ほのかに点りて  
山のロザリア(スリーグレイセス):山の娘ロザリア～  
われは海の子(唱歌):われは海の子 白浪の ～ ～

### <秋>

赤とんぼ(童謡):夕焼け小焼けの赤とんぼ ～ ～  
からたちの花(童謡):からたちの花が咲いたよ ～  
里の秋(抒情歌):静かな静かな里の秋 ～ ～  
ちいさい秋みつけた(抒情歌):だれかさんがだれか～  
まっかな秋(唱歌):まっかだな まっかだな ～  
旅愁(抒情歌):更けゆく秋の夜 旅の空の ～

### <冬>

北風小僧の寒太郎(堺正章):北風小僧の寒太郎 今年～  
新雪(灰田勝彦):紫けむる新雪の ～ ～  
津軽海峡冬景色(石川さゆり):上野発の夜行列車 ～  
トロイカ(抒情歌):雪の白樺並木 夕日が映える ～  
夏の日の思い出(日野てる子):きれいな月が海を照らし  
冬の夜(唱歌):灯火ちかく衣縫う母は ～ ～  
雪(唱歌):雪やこんこ あられやこんこ ～

### <クリスマス>

天には栄え 御神にあれや(讃美歌98番)  
いざ歌え いざ祝え(讃美歌108番)  
ジングルベル:Jingle Bells! Jingle Bells!  
White Christmas(ビング・クロスビー):I'm dreaming ～

神のみ子は今宵しも(讃美歌111番)

### <愛国歌・軍歌>

愛国行進曲:見よ東海の空あけて ～ ～  
暁に祈る(伊藤久男):あ、あの顔で あの声で ～  
海軍小唄(ズンドコ節):汽車の窓から手をにぎり ～  
軍艦行進曲:守るも 攻めるも くろがねの ～ ～  
同期の桜 : 貴様と俺とは同期のさくら ～ ～  
満州娘(服部富子):私十六満州娘 春よ三月雪解けに  
ラバウル小唄:さらばラバウルよ また来るまでは ～

山のけむり(伊藤久男):山のけむりのほのほのと～  
森の水車(並木路子):緑の森のかなたから ～ ～

あざみの歌(伊藤久男):山には山の愁いあり ～  
秋桜(山口百恵):淡紅の秋桜が秋の日の ～ ～  
誰もいない海(トワエモア):今はもう秋 ～ ～  
庭の千草(唱歌):庭の千草も虫の音も ～ ～  
紅葉(唱歌):秋の夕日に照る山紅葉 ～ ～

北の宿から(都はるみ):あなた変わりはないですか  
スキー(唱歌):山は白銀 朝日を浴びて ～ ～  
ともしび(唱歌):夜霧のかなたへ 別れを告げ ～  
なごり雪(イルカ):汽車を待つ君の横で僕は ～  
冬景色(唱歌):さ霧消ゆる湊江の舟に白し ～  
ベチカ(唱歌):雪の降る夜は楽しいベチカ ～  
雪の降る街を(高英男):雪の降る街を 雪の降る～

荒野の涯に夕日は落ちて(讃美歌106番)  
きよしこの夜 Silent Night(讃美歌109番)  
もろびとこぞりて(讃美歌112番)

牧人 羊を守るその宵(讃美歌103番)

愛国の花(渡辺はま子):真白き富士のけだかさを  
異国の丘(鶴田浩二):今日も暮れゆく異国の丘に～  
加藤隼戦闘隊:エンジンの音 轟轟と 隼は征く ～  
戦友 :ここは御国を何百里 離れて遠き満州の ～  
月月火水木金金:朝だ夜明けだ潮の息吹き ～ ～  
麦と兵隊(東海林太郎):徐州徐州と人馬は進む ～  
露営の歌(霧島昇):勝ってくるぞと勇ましく ～

若鷺の歌(霧島昇):若い血潮の予科練の七つボタンは桜に錨 今日も飛ぶ飛ぶ霞ヶ浦にや でっかい希望の雲が湧く

おわり



## 会員寄稿文

## ウクライナという国について

竹 内 可 能

わたしは今「物語ウクライナの歴史」という文庫本（黒川裕次著、中公新書）を読んでいる。実は2014年クリミア半島がロシアに併合されたとき、この半島もさることながら本国というべきウクライナという国について、詳しく知りたいというのが初めの動機であった。あのときむさぼるようにして読み終えたのは、この本のすみずみまで赤鉛筆で塗りつぶしていたのを見てもらえながら驚き入った次第である。それがどうだ、あれからまだ10年も経つや立たずのうちにもまた読み返すとは。

むろん今度またこの本を読み返したのは、いうまでもなくあのロシア国の大統領プーチン氏が、どう見ても「世紀の大国家犯罪」としか言いようのない、大罪を犯してまでウクライナ国に侵攻してきたからであった。今この書きものをしているのは彼によるこの侵略が始まったのは2月24日のことだから、すでに事件は一月を過ぎている。老い先も決して長いとも思えないわが人生の終わりにかけて、こんな理不尽なむごたらしい大事件に遭遇したことの非を嘆いても始まらない。

しかし正直なところわたしはこの小冊子を読み返してゆくうちに、プーチン氏ともあろうロシア大統領が、なにゆえにこんな大罪を犯してまでウクライナを侵略したのか、この著作のはしはしにはその秘密が隠されているように思えた。以下はその秘密にかかるわたしの所感である。

## 「ウクライナの独立」

ウクライナといえばわれわれ日本人の頭のなかにあるのは、紀元前に起こった素晴

らしいスキタイ文明とか、蒙古族がうち立てたキプチャック汗国の凄さや、勇猛果敢なコサックの物語、あるいはチェルノブイリの原子力発電所の大事故ぐらいか。それにしても、ウクライナという国が世界史のなかでようやく独立を果たしたのは、何と今からたったの30年ほど前の1991年という、まさに遅きに失したというべき年であったことだ。つまりはそれまでウクライナは国としては存在していなかったと云っても過言ではない、意外な事実であった。

もっとも著者の黒川裕次にいわせると、20世紀になってからウクライナが発した独立宣言は6回もあり、ようやく独立を勝ち得ることができた真の宣言はその6回目にあたるという。それ以前のものはいずれも長続きしないものか、または最初から長続きする見込みのないことを知りつつ象徴的になされた行為だったという。その点で1991年のものは、読者諸氏のご記憶にもあたらしいソ連邦の崩壊にともなって、国際的にも正式に承認され永続する蓋然性を持った独立であった。

## 「ウクライナ」という語源について

「ウクライナ」という言葉自体がウクライナ人のプライドと深くかかわっているらしい。つまりこれまでのところロシア史の通説としては、この言葉のもともとの意味は「辺境地帯」とされていたという。なぜかというにもともとこの地方は14世紀から17世紀ごろまで、つまりコサック時代の到来といわれる17世紀までは、およそ3百年の間ポーランドとリトアニアによって支配されていたのだ。これらの国々から見ればウクライナ地方は紛れもなく辺境地帯だった



からであろう。

しかし「ウクライナ」という言葉が文献に現れるのは12～13世紀といわれるらしいから、その当時まだモスクワ自体さらなる僻地だったことを考えると、「ウクライナ」という言葉は、現在のロシア語やウクライナ語でいう「端」とか「地方」とか「国」に該当するのではないか。尚「ウクライナ」が今日のような特定の地を指すようになったのはコサックの台頭時代(17世紀)といわれ、ドニエプル川の両岸に広がるコサック地帯を意味したという。それがさらにウクライナ地方全体を表すようになるのは、ロシア帝国がこの地の大部分を支配下におくことになった19世紀だったとされる。(もっとも当時のロシア帝国はこの地のことを公式には「小ロシア」という語を用いていた)。

さらに黒川氏は面白いことを披露しているので付記しておこう。彼によれば現代のウクライナ政府は外国政府に対しても「Ukraine」という言葉には「The」という冠詞はつけてくれるなどという要望がある由。冠詞がつくとどうしても“あの辺境地帯”という感じがにじみ出るのを恐れてのことかもしれない。因みに著者の黒川氏はウクライナ大使をつとめたことのある外務官僚であった。

### 第一次世界大戦とロシア革命

先にわたしは、ロシア大統領であるプーチンともあろう人物が、「世紀の大罪」というべき国家犯罪を犯してまで、何故ウクライナ侵攻をしでかしてしまったのか、その秘密がこの著書に隠されていると書いた。しかし隠されているといったのは言い過ぎかもしれない。もともとこの小冊子は物語風ではあるが歴史書であるから、プーチン大統領の軽挙妄動の真因が何だったのかは、このウクライナの歴史の中に見て取れる、と云った方が正確かもしれない。

いずれにしても、この文庫本「物語ウク

ライナの歴史」を読み通して思うことは、先述のようにウクライナの独立がようやく成立したのが、1991年それもゴルバチョフ大統領失脚に始まるソ連邦大崩壊のときであったことである。しかし今わたしが問題にしようとするのはこの時のことではない。第一次世界大戦が起きたのが1914年、引き続いてこの大戦がまだ決着もつかぬ1917年2月そして10月、ロシア革命(ポリシェヴィキ革命)が起きたときのことである。この時いったんはウクライナ独立に絶好のチャンスは訪れたかに見えた。

著者黒川は感慨を込めながら、小見出し“ウクライナの独立はなぜ続かなかったのか”と題してこう書きだしている。「第一次世界大戦とロシアのポリシェヴィキ革命は、ロシアおよび東欧の地図をすっかり塗りかえた。ロシアでは帝政が倒れ、ソ連(ソヴィエト社会主義共和国連邦)という新しい国家が生まれた。民族自決の原則に従って旧ロシア帝国の支配下にあったリトアニア、ラトヴィア、エストニア、フィンランドのバルト・北欧諸国が独立し、オーストリア・ハンガリー帝国下のポーランド、チェコ・スロヴァキア、ハンガリーも完全独立を果たした。

ところがウクライナは、独立を達成したこれらの国に比べても圧倒的に大きなエネルギーを独立運動に投入し、また絶大な犠牲を払った。この大戦でウクライナほど各国の軍隊に蹂躪された地はヨーロッパにないほどである。それにもかかわらず独立は東の間の夢に終わり、結局大部分はロシアを引き継いだソ連の、そして残りはオーストリアを引き継いだポーランドの支配下(つまりは大戦前とほぼ同じ状況)に戻ってしまった。ベラルーシには当時独立運動というものほとんど存在していなかったことを考えると、この地域でひとりウクライナのみが、第一次世界大戦、ロシア革命、パリ講和会議の配当を受けなかったことになる。これはどうしたことであろうか。」と。

## 地政学的なウクライナ

話は前後することになって恐縮だが、17世紀に大活躍したコサックのことは政治的にも軍事的にもすぐれてウクライナ的であり、真にウクライナを理解するにはコサックについての知識は欠かせない。したがってわたしもコサックについては別建てで後述するとして、その彼らが衰退する18世紀以降第一次世界大戦までのおよそ120年の間、ウクライナはその土地の約8割がロシア帝国に、そして残りの約2割がオーストリア帝国に支配されることになる。ウクライナの歴史といえば有史いらい高々千年と言い切ることは可能だが、この地が歴代に亘ってポーランドやリトアニア、そしてロシアやオーストリアによって（一世紀以上におよぶ蒙古族の侵略も無視できない）、長く蹂躪されてきたことは特筆に値するだろう。

ウクライナの歴史を概観するとき、もう一つこの国を理解するのに欠かせないことがある。それはこの地の地政学とでもいおうか。わたしは上述のようにウクライナの歴史は、ロシアとポーランド、それに蒙古族（タタール）に蹂躪されてきた歴史であると考えている。その理由はこの地が世界有数の実に豊饒な土地（穀倉地帯）であることと、黒海という海上に接する古来貿易港に恵まれていたことだ。むろんこの地に9～10世紀ごろのキエフ・ルーシ大公国が、歴史上はじめてスラブ民族の起こした国家らしい組織体であったから、ときどきプーチン大統領が口にするロシア、ベラルーシ、ウクライナの三国こそスラブ族として兄弟国である、というのは一理ある（ルーシというのは「ロシア」の語源である）。しかしロシア人やポーランド人そして蒙古人が、この地に長く居座り続けた本当の理由は、彼らにとってこの地が穀倉地帯であり、貿易港に恵まれていたことと言っても過言ではないだろう。

因みに「ヨーロッパのパン籠」とまでいわれたウクライナの穀倉地帯について著者

の黒川もこんな有名な引用をしている。「辺境地帯は豊かだという噂は尾鰭がついて広まる。16世紀の文献によると、この地の土壌は肥えているので百倍の収穫がある。畑で鋤を忘れて3～4日すると、草の成長が早いので鋤を見失ってしまう。蜜蜂は古木だけではなく、洞窟にも蜜を溜めるので蜜の泉が当たり前にある。刀を立てるとあまりに魚が多いので刀は垂直のままである。春に野鳥の卵を採りにいくと、鴨、雁、鶴、白鳥の卵で満杯になるなど、と」。古い統計ではあるが、1909年～1913年全世界の大麦の43%、小麦の20%、トウモロコシの10%はウクライナで生産されていたといわれる。

## 「コサック」について

先にわたしはコサックのことを政治的にも軍事的にもすぐれてウクライナ的だと書いた。われわれ日本人にもその歌や踊りならよく知られるところだが、本当のことは意外に理解されていない。現にわたしもそれ以上のことは今日まで何も知らずだったが、こうしてロシアの突拍子もないウクライナ侵略に驚き、調べてゆくうちにこの問題の本質を知るためには、コサックのことを知らなければならないことに気が付いたのである。コサックという言葉はもともとトルコ語で、その意味は「分どり品で暮らす人」とか「自由の民」ぐらいのことだったという。当時は蒙古族（タタール）にたいして使われていたものが、後になると同じことをしでかすスラブ系の人たち（主にウクライナ人）を指すようになったらしい。

15世紀ごろからウクライナやロシア南部のステップ地帯に住み着いた者たちが、出自を問わない“自治的な武装集団”を作り上げたものが「コサック」である。ウクライナ語では「コザーク」、ロシア語では「カザーク」といいその集団とか構成員を指すという。ここからが大変重要と思われる個所なので以下少々長くなるがコサックとは何だったのか、著者の黒川裕次にしたがっ

て解説を試みたい。そもそもがポーランドとリトアニアに支配されていた14～16世紀ごろ、つまりウクライナにとっては暗黒と空白の三世紀と言われた時代だが、前掲のキエフ・ルーシ大公国の時代にはほぼ全域にわたって単一のルーシ民族だったものが、この期中にロシア、ウクライナ、ベラルーシの三民族に分化したといわれる。

### 「コサックの政治勢力と限界」

17世紀初頭にはかのドニエプル川の中・下流地帯に確固たる勢力を築いたのがコサックであった。こうして彼らは近隣から恐れられると同時に、キリスト教世界とイスラム教世界（オスマン・トルコ）の境界線に位置する、一つの政治・軍事勢力として諸国から一目置かれるようになる。わたしの目からすれば、この時のコサックの政治・軍事勢力こそ、ウクライナがその歴史のなかで、もっとも独立（国家権力）に近づいた瞬間ではなかったかと考える。しかし現実はそのようではなかった。コサックという政治・軍事勢力をもっとも利用したのは外ならぬポーランド王であった。当時の彼には敵対するタタールやオスマン・トルコからポーランド王国を守る盾が必要だったが、議会で戦争の承認を得るには貴族の反対が強すぎたのである。コサックは彼にとって格好の武器といえたのだ。逆にいえばコサックはポーランド王国に利用されただけだったともいえ、その限界を思い知らされるのである。

### 「ヘトマン・コサックのフメリニツキー」

ヘトマンというのはコサック集団の領袖を指すウクライナ語である。このヘトマン・コサックのフメリニツキーという男は、いまでもその乗馬像がキエフの街にあるソフィア聖堂前の広場に立っているように、ウクライナ建国に尽くした英雄（実際にはまだ国はなかったが）として最も有名な人物といわれる。その彼をいきなりここに紹

介するのは、その彼にしてもこの国の独立という観点からすれば毀誉褒貶は激しく、やはりわたしはヘトマンとしての限界を痛感せざるを得ないのである。

その彼が生まれたのは1595年、ドニエプル川中流のチヒリンという町の小領主だった父のもとで育った。その彼がコサックに参加したのは50歳を過ぎてからといわれる。その理由としてあげられるのは、彼が領有する土地がポーランド貴族に召し上げられようとしたときのことであった。わたしが思うヘトマンとしての彼の限界の第一はこの出自の経緯にある。黒川は書く「確かにヘトマン・フメリニツキーこそは組織者、軍司令官、外交官としてなら卓越した能力をもってウクライナの歴史のなかではじめて自分たちの国家（もしそれが完全に独立した国家とはいえなくても、事実上国家といえるもの）を作り上げた」と。続けてこうも記す「しかし他方、彼がモスクワで結んだ保護条約が、ウクライナをロシアに併合されるきっかけを作ったとして、彼をウクライナの裏切り者とする非難もある」と。

### 「ヘトマン・フメリニツキー第二の限界」

上述黒川氏の指摘にもあるように、わたしは彼が裏切り者扱いを受けてきたのは理解できる。彼はポーランドを恐れるあまり、モスクワに乗り込んでロシアの助力を求めた結果、ロシアはウクライナを保護する義務を負うというのがこの条約の趣旨であった。結局これがもとで後にはロシアがウクライナの弱みにつけこみ、これを併合することにつながったのは紛れもない事実である。この当時のコサックは“コサック国家”とまでいわれたように、その政治・軍事勢力の伸長には国家なみの見るべきものがあった。またロシアといっても当時はまだポーランドの対抗勢力といった程度だったから、フメリニツキーともあろうヘトマンが、なぜこの期にロシアの保護を求める必要があったのか、疑問視する学者は今でも



多いと聞くのである。

### 結語

本文の冒頭でわたしはプーチンともあろうロシア大統領が、なにゆえにこんな大罪を犯してまでウクライナに侵略したのか、この著作のはしはしにその秘密が隠されているように思えた。」と書いた。下記にそれを明らかにしたいのである。

幾度となく本文にも記してきたが、ウクライナが独立を果たしたのは1991年というソ連邦大崩壊の年であった。ウクライナというれっきとしたヨーロッパの大国にして、信じがたく遅きに失した独立である。過去には早くから独立のチャンスはあったはずである。あのヘトマン・コサックのフリニツキーでさえ、本人にその気さえあれば機会があったはずと思える。いうまでもなく第一次世界大戦のときも、ロシアにポリシェヴィキ革命が起きたときには絶好のチャンスが到来したのは事実である（第二次世界大戦が終焉したときの、ソ連邦をめぐる領土問題のゴタゴタ解決については言及しないこととする）。要するにウクライナの独立は、今からたった30年前起こったソ連邦の大崩壊を待つほかなかったのだ。

わたしの見るところ、ウクライナ人はその昔からこの地で自分たちの「自治」を求め、これを守ろうとしてきた。しかしその一方で、「独立」への希求は薄かったというほかはない。そのことはヘトマン・フリニツキーの場合も顕著ではなかったか。ウクライナ人は「自治」が危急の場合には、国外の国家権力に助力を求めようとしてきたが、自らの国を建てようとする自助努力は惜しんだともいえようか。「自治」の獲得や保守には「独立」こそが、もっとも手っ取り早く確実であることに気が付くのが遅かったのかもしれない。

しかしわたしはその非をウクライナ人に帰するのを忍び難い思いでいる。ウクライナの歴史的な、そして地政学的な立場につ

いてはそれなりに触れてはきた。ポーランドやロシアそれにタタールなどに、ながい間過酷に苦しめられてきたウクライナ人であった。わたしはそうした歴史的・地政学的なウクライナの特徴に、もうひとつ肝心の国民性を付けくわえたいと考えているところだ。それは人間らしい、土着の、善良なウクライナ人の持つ「国民性」とでもいおうか。

だがしかし、わたしが言おうとしているのはそのことではない。そうしたウクライナ人のもつ国民性に、同じスラブ民族を自負するロシア人なら、これをどのように受け止めるだろうか。彼らロシア人がそうしたウクライナ人をあえて軽んじ、蔑むとしたらどうだろうか。そしてそんなロシア人のなかの一人に、プーチン大統領がいたとしたらどうだろうか。決してあり得ない話ではない。巷間言われる「プーチンの計算（見込み）違い」とか「プーチンの戦争犯罪」とか、それらを突き動かす動機とは一体何だったのか。それはもしかして、上述のようにその昔まぎれもなく自分たちの同胞だったウクライナ人に対して、いまのロシア人がいだけ軽蔑・軽侮の念ではなかったのか。もしそうだとしたなら、はなはだしい時代錯誤といわざるをえないのである。

(おわり)



## 会員寄稿文

## コロナ禍、米中貿易戦争、ウクライナ紛争

中 川 十 郎

## 1. グローバルマーケティングの視点から見た米中貿易戦争とウクライナ紛争

トランプ政権が中国との貿易対抗措置を強めた2018年8月以来、現バイデン政権も中国への対抗策を踏襲している。背景には古代ギリシアの「ツキジデスの罫」理論による、スパルタとギリシアの対抗と同じ構図が浮かび上がる。

かつて1980年代に日本が「ジャパン・アズ NO.1」ともてはやされ、瞬間的にGDP Per Capitaで日本が米国を抜いて世界一位に躍り出た。米国が対抗措置として、日本の対米自動車輸出自主規制。さらには日本自動車メーカーの米国での製造誘致、日本の米国からの輸入拡大。そのための日本の構造改革、さらには1985年の日米プラザ合意による円の大幅切り上げの結果、日本は以後30年にわたり、経済停滞を余儀なくされ、日本衰退論も益々強くなっているのが現状である。

1980年代後半に6年間の商社ニューヨーク駐在を経験し、日米経済摩擦の渦中にあった者として日米経済摩擦と米中貿易戦争に関して以下検証したい。

1) 筆者は日本が1990年来30年の長きにわたり、長期経済低迷に陥っている遠因は1985年のプラザ合意による円の大幅切り上げだとみている。この観点についてはかつて筆者が米コロンビア大学経営大学院・日本経済経営研究所客員研究員として留学時、指導を賜った故ロバート・マンデル教授（1999年ノーベル経済学賞受賞）が日本衰退の原因はプラザ合意で日本が大幅円高を受け入れたことだと力説。その後、中国人民大学名誉教授、中国財

務省顧問として中国政府の金融財政政策へのアドバイスに際して、日本の円高の悲劇を繰り返してはならない。米国の要請があっても元の切り上げに絶対応じてはならないと中国政府関係者に力説していたことを思い出す。

2) 米国は象徴的なハルワエへの禁輸など、IT関連での中国対抗策を強化している。これはかつて1980年代日本が経済面で米国に肉薄していたころ、東芝機械がポーランド経由工作機械をソ連に輸出。結果、ソ連は潜水艦のプロペラの消音に成功。米国潜水艦がロシア潜水艦を追跡できなくなった。ココム違反だとして東芝の対米輸出の1年間の輸出禁止。米国主要新聞に東芝の謝罪広告を出すよう要求した。しかし、後日の調査結果、ソ連潜水艦のプロペラの消音は東芝工作機械輸出前から実現していたことが判明。東芝はあらぬ濡れ衣を着せられたわけだ。東芝はその後、GEの原子炉部門を買収。それが原因で、東芝が今日、企業存亡の岐路に立っていることは歴史の皮肉であると言わざるを得ない。

3) 5月のバイデン大統領訪日に際し、米国はIPEF (Indo Pacific Economic Frame Work=インド太平洋経済枠組み)を提案した。南太平洋のフィジーを含め14カ国が参加を表明しているという。これはTPPを離脱した米国が21世紀の発展地域のアジアを取り込む経済戦略で中国包囲網を意図するものだ。日本はすでにFOIP (Free and Open Indo-Pacific = 自由で開かれたインド太平洋)を提案。

インドを取り込み対中国経済包囲網を構築中だ。

一方、中国はRCEP (Regional Comprehensive Economic Partnership=東アジア地域包括的経済連携) に注力する傍ら、CPTPP (Comprehensive Progressive Trans Pacific Partnership) への参加も申し込み、参加を表明している英国、台湾とも競合している。

4) 米国の戦略を競争情報 (Competitive Intelligence) , ビジネスインテリジェンス (Business Intelligence) の観点から分析すると下記である。

1. これから発展するユーラシアにおけるロシアの封じ込めにはNATOを通じ、今回のウクライナ紛争を足場に武器供与で対抗、ロシアを分断する。
2. 21世紀に発展するアジアに関しては、米中貿易戦争戦略としてIPEFで発展する中国に対峙する。
3. だが、中国は21世紀に発展するアジア、ユーラシア大陸を目標に「一帯一路 = Belt & Road Initiative」の拡大、上海協力機構 (Shanghai Cooperation Organization=SCO)、BRICS (ブラジル、ロシア、インド、中国、南ア) との連携強化により、2035年の経済大国、軍事大国を目標に、BRICSについてはさらに南米のアルゼンチン、アジアのインドネシア、中東のサウジアラビア、イランなどを勧誘し、新興国の団結を一層深めようとしている。
4. 米国はQuad (米国、豪州、日本、インド) とAUKUS (豪州、英国、米国) で、アジアで中国、北朝鮮、ロシアの軍事的包囲網を構築中である。これは中国に対抗するアジア太平洋のNATOとみなす人もいる。

5) よって日本としては、21世紀に発展するアジアを見据え、アジアの一員として、

米国一辺倒でなく、日本の利害を慎重に考慮しつつ、日本独自の外交、経済戦略を樹立することが肝要であろう。

## 2. コロナ禍とウクライナ紛争

1) コロナ禍は6月27日現在、世界全体で5億4300万人強 (死者632万人)、米国8600万人強 (死者101万人)、インド4300万人 (死者52万人)、ブラジル3230万人 (死者67万人)、フランス3071万人 (死者15万人)、ドイツ2777万人 (死者14万人) が5傑でいまだ衰えを知らない。日本は924万人 (死者3万100人) と一進一退だ。コロナ禍で発展途上国を中心に世界経済が大きな影響を受けてる中、2月24日に始まったロシアのウクライナ侵攻は4か月、120日を経ても終結の見通しはつかず、場合によってはアフガン戦争のごとく長期にわたるとの見方をする人もいる。

2) いずれにしてもウクライナ紛争が今後の世界政治、経済に与える影響は予想以上に大きく、特にエネルギー、穀物、食料への影響はヨーロッパ、アフリカ、中東諸国を中心に今後大きな問題になると思われる。6月28日閉会した主要7カ国首脳会議 (G7サミット) ではロシアへの制裁強化とウクライナへの支援拡大で合意し、途上国への食糧安定供給のため、45億ドル (約6000億円) を追加供出することで合意したという。(日経6月29日)

3) このG7会議では米国が主導、主要7カ国で拠出し、投融資を計画する「グローバル・インフラ投資パートナーシップ (PGII)」を発表した。これは中国が2014年来注力してきた「一帯一路」への投資を主体とする「アジア・インフラ投資銀行 = Asia Infrastructure Investment Bank (本店北京)」に対する地政学的なたくら



みで目的は一帶一路を壊すことにあると中国外務省が反発。対抗措置として、BRICSのインドネシアなどへの拡大を検討。すでにアルゼンチンとイランがBRICS加盟を明らかにしたという。中国の習近平主席は新興国と発展途上国の連携強化を呼びかけ、既存の途上国援助基金に10億ドル（約1350億円）を拠出する計画を明らかにしている。6月24日開催のBRICSオンライン会合には反米を掲げるイランや、親中のカンボジア、中立的な立場を取ってきたインドネシアやマレーシアなどの首脳もオンラインで参加。BRICSの拡大が話題となった。

BRICS開発銀行（資本金500億ドル）は本店を上海に構え、初代総裁はインド代表が務め、発展途上国向けのプロジェクト融資に活躍している。

4) ウクライナ紛争に関しては、遠藤誉・筑波大学名誉教授の『ウクライナ戦争における中国の対ロシア戦略』世界はどうか変わるのか（PHP新書）、および矢吹晋・横浜市立大学名誉教授の論説がすぐれている。

5) 遠藤誉先生は「ウクライナは本来、中立を目指していた。それを崩したのは2009年当時のバイデン副大統領だ。ウクライナがNATOに加盟すれば、アメリカは強くウクライナを支持すると甘い罠を仕掛け、一方では狂気のプーチンにウクライナが戦争になっても米軍は介入しないと告げて、軍事攻撃に誘い込んだ。第二次大戦以降のアメリカの戦争の正体を正視しない限り、人類は永遠に戦争から逃れることはできない」と米国に手厳しい批判をしておられる。

一方、米国のイーロン・マスク氏はウイグル自治区を太陽パネルの基地にし世界最大クラスのEV工場建設をもくろんでいるとの情報にも触れておられる。

（PHP新書）

6) 矢吹 晋先生はバイデン政権のプリンケン国務長官グループの特にヌーランド国務次官補とウクライナとの癒着について独自の資料と情報収集力でウクライナ戦争を鋭く批判しておられる。欧米のメディア報道に惑わされることなく、独自の情報収集により、事の真相を究明する努力が肝心だと思われる。

7) ASEAN諸国は中立の対応で、ロシア批判に賛成したのはシンガポールだけである。アジアの一員である日本はアジア諸国の動向も十分踏まえて日本政府はウクライナ戦争に対処すべきだと思われる。欧米に引きずられ、国防費をGDPの2%に増額する意見が岸田政権にあるが、慎重にも慎重な対応が肝要である。

以上

#### 主要参考文献；

『ウクライナ戦争に於ける中国の対ロシア戦略』世界はどうか変わるのか

遠藤 誉 PHP新書 2022年4月

『ロシアの興亡』河東徹MdN新書 2022年6月  
月刊TIMES 月刊タイムズ社 2022・7 ウクライナ問題の「真相」と「深層」

「ウクライナ戦争の不都合な真実」鳩山由紀夫  
「戦争回避を拒んだのは誰かーウクライナ戦乱の虚像と実像一力による現状変更を強行する米の狙いは何かー植草 一秀

『プーチンと習近平 独裁者のサイバー戦争』山田敏弘 文春新書 2022年4月

『ウクライナ危機』日経BP編 2022年6月

『プーチンの野望』佐藤 優 潮出版社 2022年5月  
『文芸春秋』2022年5月号、6月号 他

## 会員寄稿文

## オイルビジネス昔話

高木 恒久

## ○ シェルの潤滑油の受注。

1978年建設機械用潤滑油10,000ト(ドラム缶入り)がシェル石油川崎のふ頭を離れるのを見送った。乗組員の姿も見えない貨物船に私は手を振っていた。夢が叶って契約が出来て、潤滑油を積んだ船が岸を離れ出てゆくを見て、喜びがこみあげてきた。

話は3か月ほど遡る。ソ連が「寒冷地仕様のエンジンオイルの必要に迫られている。近く海外買い付けに動く」との貴重な情報をGOSPLANから得た。私はシェル石油さんと話をさせて頂いた。「やり方によっては、全量シェルで受注することも可能と考えている」こともお話した。そして、それが出来れば向こう数年リピートが続くかもしれないとも。そして、「潤滑油の生産余力は充分にあり、値段さえ合うなら興味あり」とのご返事。「では、引き合いが出てきてしまう前に、御社の見積りを、すぐにネフテエクスポートに送りましょう」シェルさんとの共同作戦はまとめ、2日後には見積もりを弊社モスクワ駐在員経由 ネフテに提出した。すると、これが正に呼び水。1週間後、先方から正式の引合いが入った。シェルさんの品番迄指定してある。いつもならソ連は必ず競合他社から相見積もりを取るのだが、その気配は感じられず、向こうの急ぐ姿が見えていた。おそらく出した値段がすでに安かったのが良かった様だ。つまりは、すべて私が事前に描いたように商売は作り上げられて行った。2-3回のテレックス通信はあったが、直ぐ契約にサインを交わすことが出来、我社はいい商いをさせて頂いた。以降、この潤滑油ビジネスはそこそこの利益を生みながら、結局5年間続いた。

## ○ 高分子化合物「ポリブテン」の受注。

ロシアから、ポリブテンの引き合いがあ

り、出光石油化学(以降「出光さん」)の製品を「石油公団」にオフアした。用途は、モスクワからレニングラードまでの地下ケーブルパイプに充填するという。調べると、競合するメーカーは英国の一社のみ。出光さんを訪ねた。お会いして、見積もりを出して頂きNMのオファーにして商談に備えた。こちらの方も、うまく話は進み最初の契約が出来た。この商いも採算は上々で、8年間続いた。ソ連側の充填も順調に完了した様だ。実は英国にも同品質のポリブテン生産するメーカーがあり、英国に負けないようにこちらは神経を使っての戦いであったが、英国のメーカーは如何したのか、介入してくる気配は感じられなかった。生産に支障があって生産を辞めたようだと話を聞き及んだ。

## ○ アメリカのオイルコークス

1975年、モスクワに勤務していた私にネフテのサムソノフ部長から電話があり、緊急に相談したい、すぐ来れるか、という。私は、タクシーを捕まえ駆け付けた。

硫黄分3% MAXのオイル・コークス12,000トだ。スペックはこれだ。緊急だ。静かに動いてほしい。メーカーは何処でもよいが、NORSKJ HYDROには話するな、という。私はオフィスに戻って、NM海外オフィスの住所一覧に従い、同じ文で引き合いを打ちまくった。結局NY店斎藤さん、ジュッセル店荻野さんから、返事が入った。残念ながらヒューストン積みのNYの方は硫黄分が多くアウト。ジュッセルのスペックはOKとなった。しかし、太平洋に面したロングビーチから、5万ト積み船でパナマ運河を経由、ロッテルダムに着くとソ連の3000ト積み小型貨物船に積み換えるのだ。それはロッテで本船から3000ト積みソ連船に、ポンツーンを介して積むという。パー

ス使用料が高くて、少量3000トでは不経済という。ソ連側も同意して契約はできた。実際やってみると、ロッテには3000トのソ連の空船は沢山浮いていて、船待ちの心配はなく、本船2回、1か月半で契約の12,000トが片付いた。サムソノフ氏他一同は、この結果に大いに満足だった。

ソ連の内幕はこうだった。国家計画で、76年にアルミを生産するには、オイルコークスを原料にした電極が必要だが、頼みのノルスク・ハイドロから何かの理由で、コークスが出てこない。その知らせを受けていたソ連の方がぼんやりしていて、代替品の手当てを怠っていたようだ。サムソノフから本件で呼びだされた翌日の新聞「プラウダ」の1面にオイルコークス手当の失敗を糾弾する厳しい記事を読んだので、私は本件がいかに重大な問題かを知っていた。だから、サムソノフ氏に私は、あなたたちはこれで安心。乾杯でしょうが、私は「今回、NMはぎりぎりの奉仕の精神であなたたちのお手伝いをしたので、1コペイカの儲けもないことを知って置いてほしい。何か、大きな仕事でコンペンセーションが無ければ、私は首になる」と泣いて訴えたのが効いたんでしょ。サムソノフ氏は「今すぐには新規発注するものが無い」と言って、「某商社とのピッチコークスの契約で、彼らのパフォーマンスに問題があるので、次の契約からNMに切替えると云うのは如何か」という。私はそれをぜひお願いしますと頭を下げた。こうして、契約者を取り替えるのも、公団は外国貿易省に稟議して、決済を仰がねばならないことを私は知った。しかし、そうになると、「ごめんなさい。NMではオファーが出来ません」とは、最早言えない。わたしは、この商談を成功させるために、NMがオファーを出せるよう本社にハイレベルでの交渉をお願いした。結果、ことはうまく運んで、NMから目出度くオファーが出たという事で、サムソノフも安心し、目出度しとなった。しかもこの契約は20年間続いたとのことである。

上記の潤滑油、コークスで石油公団との

関係が出来たのは、訳があった。原油、石油は商社には売らないという公団には内規があったからだった。昔、商社、トレーダーに石油を売って、無責任な会社からひどい仕打ちがあったから、公団は商社には石油ではなくコークス、潤滑油など「雑品」しか扱わせなかった。しかし、オイルショックがきて、原油の値段が30ドル、20ドル、10ドル、25ドルと激しく上下したとき、ソ連は国家予算を原油価格30ドルの高収入に合わせ組んでしまい、石油価格が下がったからと云って国家予算を下方修正は出来ない。そうこうしている内に、世界中の石油の需要家は20ドルに下がったところで年間のオイル需要をカバーしてしまったため、ソ連は一人原油を売るチャンスを逃してしまった。

慌てたソ連は、ネフテの売り遅れで、このままでは無収入になってしまうので、「雑品部」経由、市場価格で売り始めた。NMは日本商社では最も熱心で、協力的であったので、最大のシェアを持つよい結果を出していたので、最大の業者として認められ、年間300万トを扱う年もあった。そのころ、「雑品部」を「極東ナフタ」と部名を変えて、以降堂々と原油、石油も販売するようになった。

1989年のソ連崩壊の直前には、ソ連は外貨不足で対外決済ができない事態に陥った。

幸いわが社は原油、石油製品買付け未払い代金で、機械、紡蝕テープなどの未収勘定との相殺ができて、NMとしては大いに助かった。

### ○ BPのアンディー・ホール氏

ヒューストンで「相場王」の名を欲しいままにしていたBPのアンディー・ホール氏が、いよいよ任期を終えロンドンに帰ってくるという話でロンドンには急に騒がしくなった。彼は古巣のBPに戻るのか、或いはどこかに高給で雇われるのか、などなど噂が噂を呼んでいる。或る日わたしはコノコ(米)のエドワーズ氏とチェコーニ(レストラン)で昼食を共にしていたら、エドワー



ズが私に「知ってるかい、あそこに座っている男がアンディー・ホールだ。」と教えてくれた。紺のスーツを着て、きれいに髪を整えた貴公子だ。賭博士のような風貌かと想像していたが、実際は全くの真逆で、知的な大人しい紳士、ハローカイトン校卒と言った印象を与えていた。

後日、私は思いがけぬことから、ホール氏と一騎撃ちすることになる。ちょうど世界の石油相場がずるずると下落し始め、石油の需要家は買い付けから一斉に手を引いた。その結果、ソ連原油6万トンを積んだ一隻のタンカーが黒海を出て、地中海を走るが、買い手が見つからないまま、ジブラルタル海峡を抜け、大西洋を北上している。刻一刻と仮想目的地ロッテルダムに向かっている。買い手はどこにも居らず、皆がこの「さまよえるロシア船」の行方を追って興味本位で眺めている。

その時、モスクワの故木元巖さんから、URGENTテレックスが私の所に入った。この6万トンのオファーだが、ぜひ売ってくれと言ってきた。えっ、ババ抜きジョーカー札が私の所に来てしまった。

私は困った。誰も手を出さない売れ残りの6万トスが、しかも明日朝にはロッテルダム着。今日はすでに午後4時。これから買い手を探す時間もない。察するところ、ソ連の欧州向け石油販売窓口、「ユーロナフタ」が買い手を見つけれないので、「極東ナフタ」に窓口を変えてみたのだろうが、窓口を変えた処で行先が同じ欧州なら結果は同じ、売れないだろう。ニチメンだったら飛びつくとも思ったのか。

しかし、このオファーを返上してしまっは木元さんの、いやニチメンの公団への顔が立たないであろう。何とかならぬものか。

私は一軒一軒需要家を探す時間は無いので、ブローカー「アメレックス」のエドリン君に電話する。私が明日ロッテルダムに着く6万トンのファーム・オファーを持っている。買い手はいないか?と訊くと、彼は「実は1社密かに安値を待って探しているところがある。」という。訊くと「ダー

ビー」との答え。「よし、進めてくれ。ただし、LC条件だ。」電話を切って「オーイ、平石君、大変なことになったぞ。あの首釣った油をNMが売れというのだ。今晚一緒に残ってくれ」すると彼はもうテレックス機の前に座し、既にオファーのフォーマットに売り条件を打ち込んで、これで良いかと私に見せた。そして、直ぐ「ダービー社」に、CPY AMEREXで出電した。すると直ぐアンディー・ホールだと名乗る電話があった。曰く「オッファ有難う。至急検討して返事する。しかし自分はこれから約束があって出かけるが、社に帰ってこない。ズークのギンズバーグという男にフォローさせるので、彼と話を進めてくれという。ところがギンズバーグは間もなくニューヨークに引き継ぐという。ニューヨークからLCが送られてきたが、勝手な条件を入れてきた。私はそれを拒否しておいて、時間を食えば、その付けは全部ダービー負担という意味の条件を打ち込んだ。すかさず私はロッテルダムのインフロート「本船代理人」に電話して、まだLCが揃っていない。こちらから連絡するまで荷役許可を出さないように、と伝え了解を得た。

結果、ダービーは荷役開始が遅れた場合のリスクを考えてだろう、降参した。翌朝、LCはきちんとしたものが入電し、無事ディールはDONEした。

それから数日してホール氏から電話があり、「先日の件では迷惑をかけた。弊社には癖のある人間が多いので申し訳ない。一度ぜひお目に掛かりたい」、と行ってグローブナー・ハウスで粗餐を提供したいというオファーがあったので、それを受けた。当日私はコケ脅しの気持ちもあって、総支配人から大きなベンツと運転手のトムを借りて目的地に乗り付けた。

アンディー・ホールと2時間ほど食事しながら忌憚のない話を交わした。今回買った原油はロッテルダムのシェルで委託精製するという。彼は頭の良い、仁義を守る男の様だと受け取れ、その後もいくつ彼との商売を重ね、よい信頼関係が築かれて

いった。私が任期を終えて近々帰国すると話した時、彼は大変残念がった。ロンドンに残って石油を続ける意思はないか、と聞かれたが私は「ない」と答えた。彼はいくつもの人脈を保って商売を大きくしたかった様に見えた。その後、彼はダービー（通称フィブロ）の社長になったが、さらにCitybankの系列に入り、Cityを下から支える大株主となったようだ。私が彼の誘いに乗らなかったのは、ロンドン・ニチメンに5年間働き、部門を黒字化したのだが、私的には任期を終え帰国する時点でも、大きな赤字を背負っていなければならなかったからだ。

### ○ 野武士の友情

ヨークシャー訛りのクリス・ハウスマンは石油業界では有名な男だった。風貌も、性格も野武士風である。彼もBPの石油仕入れ部長で、重油をよく買ってくれた。

86年夏、年間20万トンを契約していたアルジェリアの重油の内5万トンを引き取る順番になっていた。これが中々売れないでいた。リベリア船籍のタンカーをアルジェへ着けたが、価格が毎日下がっていった。積み終わって船が出てからも値が下がり、市況は回復の気配がない。私は窮余の一策ロッテルダムBPの社長になっていたクリス・ハウスマンに電話し話を話し、BPのタンクでしばし預かって呉れと頼んだところ、彼曰くBPのタンクは高いから、知り合いの信用でできるタンク業者に話しておこう。と言って直ぐにタンクを仮ブックしてくれた。ロッテルダムでの最後の空きタンクだったという。私は急遽ロンドンからハンブルグに飛んで、ロッテルダムにタンクを持つ業者のオフィスを訪ね、契約した。社長は素朴な人で、こういう人に油を預けておけば安心だという気がしたものだ。息子は高校生で英国の学校に通わせていると言っていた。

社長は私を小さなレストランによんで、新鮮な鰯をリング酢で軽くメタのを肴にワインをご馳走してくれた。帰途ロッテルダムに寄ったのだがハンブルグからロッテへの便は、小型の「ドルニエ」で、プロペラ

の音が煩く、飛行が遅いのにイライラした。ロッテでクリスに会いタンク屋を紹介してくれた事に、お礼を言って、クリスを食事に誘ったが、逆にご馳走になってしまった。夜も更けたので、ロッテルダムの安宿で一泊し、翌朝ロンドンに帰った。さて、石油の市況はなかなか戻らず忍耐の毎日だった。11月に入ると相場は持ち直してきた。私の後任、武内君は私と同期入社で、お互いに信頼しあっている間柄だ。私が東京に戻ってから毎日テレックスで連絡を取り合い、少しずつ売った。ライン河を上下しているバージの多くは暖房用の石油をデュッセルドルフ、ボン、上流のシュツットガルトなど、川沿いにある美しい都市に油を運んでいるのだ。冬の寒さが厳しければ需要は増えるが、雨がしばらく降らないと河の水嵩が減り、船は底をするから輸送は止まる。雨が沢山降れば水位が上がり、橋の下を通過できないことなど、考えたこともなかった事を、この時初めて知った。翌年1月の初旬に最後の一杯を売り切って、武内君とテレックスで乾杯を交わした。金利、倉敷料引いて少額の黒字で手仕舞い出来たのはクリスの御蔭だし、武内君の頑張りによるところが大きい。

2年が過ぎた。東京のBP事務所長からNMのオフィスに電話があった。ハウスマン氏が東京に来るについて、スケジュール造りをしていたら、高木さんに会いたいののでスケジュールに入れておくよう言われたので、都合を聞かせてほしいと言う。ハウスマンは今月BPを定年退職するので、こうして世界中の友人との別れの挨拶の出張だという。“高木さんお一人でおいで願います”と云う。狸穴に近いレストランに呼ばれ、私は土産に有田焼の小さな皿をもって参上した。クリス他の人達と飲み、談笑する楽しい夕べとなった。

後日2013年、私はアムステルダムへ行く用事があったので、ロンドンに立ち寄った。

ハウスマンは態々（わざわざ）ヨークから出てきてくれ一緒に食事した。クリケットで毎日を過ごしていると言っていた。

おわり

## 「俳句の会」いろは句会

佐藤 英二

長寿の「いろは句会」句集を今回もお届けします。当句会は本年3月に第389回を終了し、「継続は力」の言葉通り地道に活動しています。

2020年1月以来、急激に感染が広がった新型コロナウイルスの影響で、メンバーが直接顔を合わすことが出来ずメール交信という形式での句会が既に2年半となりました。いずれは従来通り対面形式でという期待を持ちながら、月に一度会員同士で切磋琢磨しております。

俳句に少しでも興味のある方、始めてみたいと思っている方、老若男女問わず大歓迎ですので、社友会編集部にご連絡ください。

今回は昨年10月～本年3月の間の各人自薦3句をご披露致します。(氏名は50音順)

踏青やハミングしたる十八番  
春光に蹠踏めきて立つ麒麟の子  
年毎に道遠くなる墓詣で  
宇治田薫風

おさな子のよちよち歩き青き踏む  
川岸の夕日に染まる草紅葉  
赤頭巾並ぶ地藏の冬めけり  
久保田悦子

朝刊の配達の声朝寒し  
境内に人影見えず除夜の鐘  
子らの声なき節分や令和の世  
佐藤 英二

日脚伸ぶいつもの道のいつもの樹  
冬晴れや雑に大きく窓を拭く  
銀杏散る黄葉敷きつめる通り道  
下川 泰子

人訪はぬ古き小社に初詣  
八本のオール揃ひて春光る  
散り敷きてなほ真つ盛り金木犀  
福島 有恒

玉砂利をファーストシューズ初参  
裏木戸は傾いだまに花八つ手  
冬日影ストリートダンサーひとり  
藤野 徳子

古里の山河は優し青き踏む  
寒紅やきりりと巫女の束ね髪  
冬日浴び笑ふたような野の仏  
堀部 暁

春光や毬蹴る子らの声高し  
何事も無きが如くに沈丁花  
枯れ蓮の映る池の面宮参り  
山田珠真子



## 白石哲也さんを偲ぶ

奥村 睦夫

4月27日（火）、奥様よりお電話いただきました。

白石哲也さんが2022年3月13日旅立たれましたと、享年83歳、お疲れさまでした。ご冥福をお祈りいたします。

氏は筆者入社（昭和45年）以来、木材本部南洋材部隊、ネシア会、一木会：木材本部OB会、社友会と半世紀にわたり”商い道、人の道”のご指導をいただいた思い出深い先輩であり、師でした。

また、南洋材業界（国内外）では、同業他社、船会社からは”切れ者”と恐れられ、内外の得意先からは”知恵袋で頼りがいのある方”だったと、多くの方々からの言葉が記憶に残っております。



筆者はインドネシア・マルク州OBI島森林開発、及びサンダカン駐在員事務所（東マレーシアサバ州）及び東京木材第一部で白石さんとご一緒させていただきましたが、ここではOBI島での思い出に絞りたいと思います。厳しさと優しさ、加えて気遣いを併せ持たれた方でした。



### オビ島森林開発プロジェクト概要：

開発期間：1970年6月オペレーション開始～1973年12月終了 総輸出数量：約30万㎡

日本・インドネシア・フィリピン3ヶ国参加の森林開発事業・・・(人数)は現場駐在

\* OBI島は、東西約80Km南北約44Km、鳥取県を一回り小さくしたような島

\* ニチメン（7名）：資金全額・機材・船舶などを提供、現場経営、輸出業務と原木引取り

- \*インドネシア（約700名）：労働力（伐採・運搬・船員など一般作業）提供、警護警察など
    - 元知事のポレコ社バラムリ社長が伐採権約5万ヘクタールを取得し、我社に協力要請
    - 現場リーダーは、大学卒で紳士のモハマッドさん
  - \*フィリピン（約200名）：現場全般、重機運転、造材指導、本船積込指導、医療など
    - フィリピン原木サプライヤー（カスティリオ氏+ディオニシオ氏）配下の技術者達
    - 島南部の海岸近くにベースキャンプを設営。
      - キャンプには、原木置場（水面及び土場）、自家発電所、製材工場、重機などメンテ工場、
      - 医院（外科、内科、歯科）、燃料タンク、簡易埠頭（所有のタグボートなど3隻を係留）、
      - 運動広場、モスク、教会、野菜畑、尚、全ての宿舎・建物は自前の丸太を製材して自力
      - 建設。
    - テルナテにて輸出ネゴ代金を得た後、メナドなどにて燃料、食糧、日用品、機械部品等を調達、トランク満載の給料用ルピア現金（当時はほぼ1ルピア/1円）を本船でキャンプへの輸送
    - この島は隆起サンゴ礁で石灰岩がゴロゴロ、林道工事、運材には苦勞しました。
    - 通信は、当初は本船無線、ラジオ放送を利用、小生赴任時にSSB（長距離無線、特に2300キロ離れたジャカルタHQとの諸連絡（距離：約2300キロ）
- 参考：同時期に同島で安宅産業、丸紅がほぼ同規模のプロジェクトを展開。近くのブル島では三井物産が、モンゴレ・タリアブ島では三菱商事がそれぞれ森林開発をしておりました。

1971年11月末、筆者がOBI島赴任 前任者：西田八洲男さん

1972年3月19日白石さん、原田三郎常務木材本部長とOBI島へ →現場チーフは鈴木松男さん



後列左から 筆者 南さん（重機担当） 西田八洲男さん 山下さん（船舶担当）  
 前列左から 森川博さん 白石哲也さん 原田三郎常務兼本部長 鈴木松男さん



1972年7月、白石さんオビ島着任、鈴木松男チーフと交代。以降、1973年12月の撤退まで現場運営の総責任者であり、事業全般、南洋材知識、伐採、運材、貯木、格付、重機など機材、本船荷役、貿易実務、人事管理、労務管理など豊富な経験を生かされた最適任者でした。



後列 モハマッドさん（インドネシア部隊TOP）カステイリオさん（比国パートナー社長）  
 中列 ゴンザレスさん：比国部隊 森川さん 南さん 白石さん ガルシアさん：比国部隊TOP  
 前列 ガボさん（比国部隊現場責任者） 筆者  
 注：比国＝フィリッピン

振り返れば、下記の先輩方（敬称略）が本プロジェクト（現地）でご苦労されました。  
 高木さん 加藤一葉 五十川暉夫 森田忠利 鈴木松男 西田八洲男 大山弘雄 白石哲也  
 太田昌秀 森川博 南長久さん 山下さん 宍戸由卓さん 筆者  
 ざっと半世紀が経過し、残念ながら、森川さん、宍戸さん、筆者を除き他界されました。

もっと長生きしてほしかったです。  
 ゆっくりとお休みください。 合掌 ！





## Topics



2022年6月16日

各 位

双日株式会社

双日、DNA を紐解く物語をマンガで紹介  
『Hassojitz ～総合商社 双日 未来を創造した先駆者たち～』  
第1巻「創業」

双日は、日本特有の企業形態と言われる総合商社の1社として、事業を通じて如何に社会に貢献し、未来を創造してきたのか、次代を担う世代を含め幅広い世代に分かりやすく伝えるためマンガを制作し、このたび、第1巻「創業」を当社WEBサイト上で公開しました。

URL : [https://www.sojitz.com/special\\_site/pioneer/](https://www.sojitz.com/special_site/pioneer/)

鈴木商店、岩井商店、日本綿花を源流とする双日は、160年以上の歴史を有する伝統ある総合商社です。源流の3社は、開国後の日本の産業革命を牽引し、溢れる起業家精神と「発想を実現する力」で多彩な事業を展開し、次代を見据えてきました。

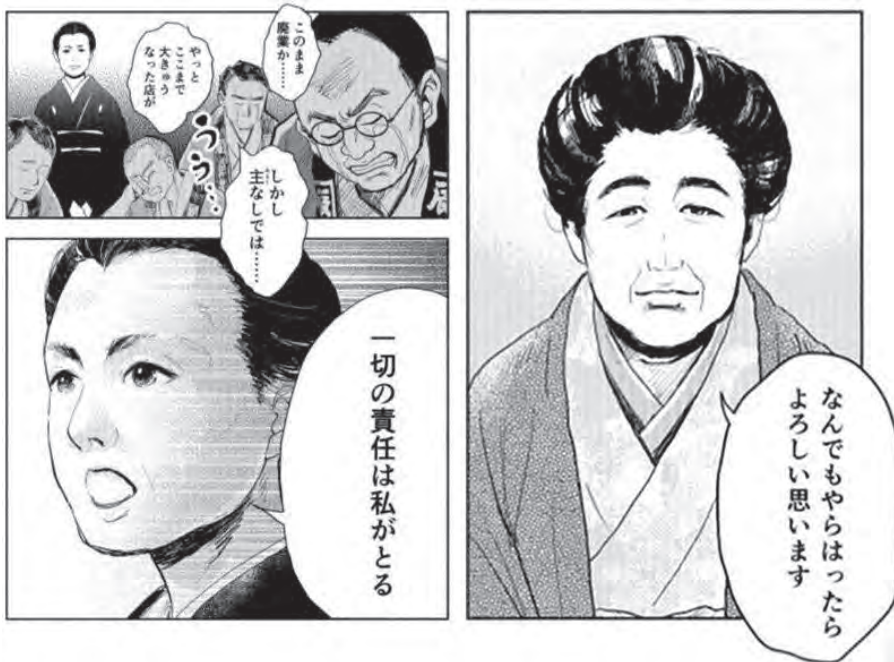
第1巻では「創業」と題して、開国後の神戸外国人居留地での出来事、大阪商人が新産業として紡績業に着目し共創していく姿、日清戦争を経て台湾に進出し、樟脳を原料としたセルロイドの国産化に向けた先駆者たちの奮闘ぶりを紹介していますので、ぜひご覧ください。私たちも総合商社の原点に立ち戻り、今一度先人の使命を見つめなおし、新たな時代づくりに邁進します。第2巻以降は四半期ごとに公開していきます。

双日は、「Hassojitz」をキャッチフレーズとしており、社内では新規事業創出プロジェクト「Hassojitzプロジェクト」を実施、双日の先駆者のように従来の延長線上にない事業創出を目指しています。また2030年の目指す姿として、「事業や人材を創造し続ける総合商社」を標榜しています。





Topics



【本件に関する問い合わせ】

双日株式会社 広報部 03-6871-3404





## 2) 三菱UFJ銀行 東京営業部 普通口座

口座番号 : 8225155

口座名義 : ニチメン東京社友会 代表 石原啓資

振込に際しましては、振込者名欄にご自身の名前を最初に左詰めに記載願います。

(ネンカイヒ、ニチメン、XXネンドカイヒ等の記載があると振込者名が通帳に記載されず、振込者が特定できません。)

(註1) 長寿会員は年会費免除になっておりますが、長寿会員からご送金を頂いた場合は当  
 当会へのご寄付とみなし処理させていただきます。(会運営上大変助かります)

但し、何らかの手違い等であれば事務所までご連絡下さい。

## (註2) 長寿者氏名：(50音順 敬称略)

青木繁行、石川勝美、糸井康雄、伊藤安雄、岩居宏一、宇治田薫、海野敏夫、  
 大久保海生、大塚静子、大森啓作、河西良治、上條達雄、木内純一、古藤彰三、  
 小林齊之介、近藤貞一、桜井潤一、三分一克美、高瀬裕、高田秀子、伊達邦雄、  
 西奥薫尚、西村弘、橋爪覚、平岡昭三、廣瀬一彦、深尾孝、福富直明、  
 松田實、松村信男、松本寿夫、水庫博夫、溝江博三、三宅葉、宮田信雄、  
 望月昌徳、吉田孝生、以上 39名

## 今年長寿者になられた方：

<<今年度(22年度)からの会費が免除になります。>>

阿賀信夫、入野英次、大場禎治、大村善勇、川畑正巳、倉又則夫、坂井良司、  
 渋谷義、菅谷省三、高木恒久、田尻眞啓、中川十郎、野城恒男、堀江亘、  
 松田邦夫、三浦甲蔵、宮内義彦、村上匡一、山田寛治、吉本邦晴、

## (註3) 終身会員(50音順 敬称略)：

入江隆史、岩田功、大羽陽一郎、奥村睦夫、唐崎和彦、新藤孝、千田俊章、  
 土橋昭夫、中田龍彦、榊山俊次、宮本正博、以上 11名

## (註4) 2022年度(2022.7~2023.6)年会費納入済会員(50音順敬称略)：

<<今年度は、振込不要になります。再来年に、23年度分の振込をお願いいたします。>>

青木聡弥、青木浩、青木政和、赤城枝美、赤澤宏哉、我妻寿一、浅井正彦、  
 浅利真司、芦村八郎、東信子、甘利廣、石黒由紀子、石原啓資、今井明、  
 入野英次、大山陽子、岡島岩男、岡田茂、小川桂、沖田隆彦、小田有久、  
 数森正彦、北川幸雄、喜多嶋雄徳、久芳成、黒住厚、桑島有一、小松繁範、  
 古谷野和夫、齊藤至弘、坂井辰雄、佐渡隆、渋谷和雄、島靖久、下浦通洋、  
 菅沼利太郎、菅谷省三、杉浦俊之、陶山晃、瀬在道晴、高田裕二、高橋正、  
 田上桂作、高見恒博、田尻眞啓、田所忠彦、田中弘、角掛康弘、土橋勇、  
 富田仁、富田保、豊福清二、中谷宣英、中原正紀、滑川和子、西川洋、  
 西野幸夫、庭野松三、野城恒男、野本定男、蓮沼恒郎、平石豊、蛭田恒美、  
 廣本昌也、福井芳樹、藤井正之助、星合良彦、細井吉一、細谷和夫、堀部暁、  
 前田孝、松村森男、松本幸子、水堀勤、箕作武彦、宮尾迪子、本松巖、  
 矢島孝、安井修司、山口一光、山邑陽一、吉川浩、吉木健、吉本邦晴、  
 渡辺重幸、以上 85名

## (註5) 2021年11月以降で 寄付をいただいた方々

三分一克美、相原直美(相原淳雄さんご息女)、大村善勇、倉又則夫、秀真正彦

## 訃 報

(前会報報告後～2022年6月判明分になります)

## ニチメン東京社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享年
1	相原 淳雄	機械	2021年 2月19日	82歳
2	松尾 憲一	木材	2021年 4月29日	94歳
3	※田 辺 理	化学品	2021年 4月29日	84歳
4	亀田 昭	機械	2021年 5月13日	91歳
5	※漢 城 皓一	物流	2021年 7月 2日	87歳
6	※亀 崎 郁夫	総務	2021年 7月29日	85歳
7	京野 勉	繊維	2021年 7月31日	82歳
8	大野 久生	化工	2021年 9月11日	96歳
9	※太 田 昌秀	木材・人事	2021年12月 1日	80歳
10	※遠 山 喜尋	食料(水産)	2022年 1月 4日	71歳
11	古川 熙	化学品	2022年 1月29日	97歳
12	※石 川 博保	木材	2022年 1月29日	85歳
13	秀 真 正彦	経理	2022年 2月 4日	81歳
14	佐藤 悦三	食糧	2022年 2月10日	86歳
15	白石 哲也	木材	2022年 3月13日	83歳
16	松本 忠夫	経理計数	2022年 3月26日	93歳
17	※渡 辺 博之	食糧	2022年 4月22日	86歳

## ニチメン大阪社友会

※非会員

	氏 名	出身部門	ご逝去年月日	享年
1	松田 武一	鉄鋼	2021年 3月 4日	82歳
2	佐野 啓二		2021年 5月21日	94歳
3	有山 和雄	通信	2021年 6月 4日	97歳
4	※大 町 泰江	財務	2021年 7月19日	78歳
5	柳 瀬 博司	鉄鋼	2021年 7月25日	89歳
6	中村 淳一	計数	2021年 8月 1日	78歳
7	吉岡 眞治郎	綿花	2021年 9月15日	93歳
8	野上 繁	鉄鋼	2021年 9月21日	84歳
9	磯口 和信	機械	2021年 9月22日	89歳
10	福田 利夫	綿花	2021年11月16日	87歳
11	高間 敬三	合成樹脂	2021年12月21日	96歳
12	関岡 大吉	社長室	2021年12月28日	83歳
13	白川 清郎	食糧	2021年12月31日	89歳
14	山口 秀夫	繊維	2022年 1月21日	86歳
15	大角 禎一	鉄鋼	2022年 2月14日	94歳
16	金森 裕子	繊維	2022年 4月19日	82歳
17	岡崎 良治	機械	2022年 4月25日	95歳

ご冥福を、お祈りいたします。合掌





## 【編集後記】

「会報」32号をお届け致します。今回も多くのご寄稿をいただき厚く御礼申し上げます。コロナ禍も既に2年半、コロナ在りきの日常が当たり前になってしまいました。こんな大混乱の最中、ロシアによる理屈の通らないウクライナ侵攻で、世界は分断の危機に瀕しております。人類の英知で一日も早いコロナ収束と平和な暮らしの再来を待ち望んでおります。


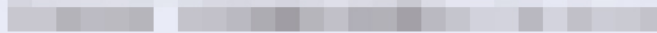
ここ数年、会報発行への作業は寄稿者様・広報チーム・関内印刷さん3者間でのオンラインを採用しておりますが、心配の種が一つ増えました。それは、この7月初めに発生した4000万回線近くが様々な影響を受けるKDDI (auなど) 大規模通信障害。過去にはソフトバンク、NTTドコモも同様の障害を起こしており、今後かかる通信障害が発生しないという保証はなく、今後の会報発行作業に支障が出ないかということです。

広報チームよりのお願い：

次号（33号）へのご投稿をお待ちしております。

会員相互の情報提供、随筆、エッセイ、珍譚奇譚、書評、同好会・同期会・OB会報告、アーカイブス写真（各種会合、仕事関連、課外活動等）、往年のロマンス、経験談、等、毎号の掲載内容を参考にされ、ご投稿いただきますようお願い致します。

一方、ホームページの「ふれあいの広場」欄に、①「旅行」②「花や景色」③「読書感想文」④「温泉情報」⑤「健康」⑥「趣味」⑦「美味しい食べ物の店や食べ方」の7つのジャンルを設けておりますので、内容をご覧の上、閲覧され、随時ご投稿ください。尚、お写真、直筆原稿などは、奥村あて郵送していただければ当方でスキャンし、PCなどに保管、用済み後に返却いたします。

- 投稿文送り先、問合せなど ⇒ 
- 郵送の場合 ⇒ 
- 会報次号（33号、2022年12月01日発行予定）へのご投稿の締め切り  
⇒ 2022年10月30日（水）

（奥村 睦夫）

## ニチメン東京社友会

〒100 - 8691 東京都千代田区内幸町2 - 1 - 1  
飯野ビルディング8F

会報発行人：石 原 啓 資

編集担当・広報チーム

リーダー：奥 村 睦 夫

メンバー：入 江 隆 史 中 田 龍 彦

森 田 淑 子

印 刷 所：有限会社 関 内 印 刷